

ALUMNI NEWS

INTERNATIONAL
CHRISTIAN UNIVERSITY

ICU ALUMNI
ASSOCIATION
3-10-2 Osawa
Mitaka-shi, Tokyo 181-8585

TEL&FAX : 0422 33 3320
<https://www.icualumni.com/>
E-mail : aaoffice@icualumni.com



ALUMNI NEWS
VOL.134 MAR.2021

大特集「コロナ禍に立ち向かう：在学生と海外同窓生に聞く」：p.2

ICU学長 岩切正一郎氏が語る「もう一つの現実世界」：p.8

A_People わたなべけい氏：p.12

Think globally, act locally. 石橋玄氏：p.14

お邪魔します！ あのメジャー 西村幹子教授：p.15



photo: ICHINOSE Chihiro

大特集

「コロナ禍に立ち向かう： 在學生と海外同窓生に聞く」

秋学期もオンライン授業継続 広がるコロナの影響、サークルや就活にも波及

新型コロナウイルスの感染は抑え込むどころか拡大が加速し、東京都には新年早々に2度めの緊急事態宣言が出されるに至った。前例のない、キャンパスへの立ち入り禁止とほぼ全面オンライン授業となった春学期に続き、いったんは下火になったかに見えたあと第2波が到来したなか、秋学期をどう過ごしたのか在校生にインタビューした。

文：新村敏雄（本誌） 写真：画面キャプチャーを除き本人提供

同窓会学生部の活動に参加されている在校生にご協力をいただいた。お話をうかがった学生の皆様は以下のとおり。

*「メディア・コミュニケーション・文化」の略



石井果蓮

（3年ID22／ISHII, Karen）
寮生。秋学期は自宅（福岡県）（新寮（銀杏））メジャー：社会学



津山亜由美

（4年ID21／TSUYAMA, Ayumi）
アパート住まい。秋学期はほぼ自宅（香川県）メジャー：経営・情報科学



鄧旭良

（2年ID23／TO, Akira）
自宅通学（東京都）。メジャー：情報科学



松本歩純

（3年ID22／MATSUMOTO, Hozumi）
寮生（新々寮（縦））平和研究メジャー／MCC*マイナー



森川和花

（4年ID21／MORIKAWA, Honoka）
寮生。秋学期は自宅（鹿児島県）（新々寮（縦））メジャー：MCC*

秋学期もほぼオンライン

秋学期の授業も、対面形式または対面形式併用だったのは1年生のELA（リベラルアーツ英語プログラム）や理科系の演習、実験などに限られ、ほとんどのコースがオンライン[オンデマンド形式（非同期型）、Zoomによる

リアルタイム形式（同期型）、対面とオンラインのいずれかをあらかじめ学生が選べるハイブリッド形式]となった。なかでもZoomによる授業が圧倒的に多かったという。春学期は大学側の準備期間も限られていたことから、オンラインといっても「ビデオを視聴し課題を提出するような授業も半分ほ

どあった」のは致し方なかった面もある。

今回お話を伺った学生の皆さんは、秋学期に履修した授業はすべて同期型だった。4年生は提出期限が2月はじめとされている卒論があるが、これも2週間に1回のオンライン指導だったという。

オンデマンドは録画のファイルを視聴する授業。自分の好きな時間に見られるし、教室にいるような一定の緊張感を維持し続けなくても受けられる。一方、Zoomによるリアルタイム形式ではそうはいかない。インタビューに応じてくれた学生の皆さんも「一日中Zoom授業がある日は、夕方になると

春学期終了後に大学が実施したオンライン授業に対するアンケート(3,190人に送付、1,229人から回答)で、
オンライン授業の良い点として挙げられた回答例:

- ・チャット等のシステムにより、対面での授業より発言が容易である。
- ・ディスカッションが高度で活発だった。
- ・すべての人が最前列に座っているような印象で、質問がしやすい。
- ・遺跡からのライブ中継があった(通常授業では、人数的に難しかったと思われる)。
- ・物理的な距離により招くことができなかったゲストスピーカー(海外から)の話を聞いた。
- ・感染リスクを心配することなく授業を受けることができる。

お尻や腰が痛くなりました」「視力が低下した」「運動不足を感じた」との反応が多かった。もちろん、Zoom 授業が大半の場合、それに合わせた生活になりリズムが作りやすい一方、ビデオはいつでも見られるので視聴が夜遅くになってリズムが乱れることもあるなどメリット、デメリットもある。

再認識した「同じ場にいる」ことの良さ

Zoom を使ったオンライン授業自体は、春学期を通して受講したことで様子は十分わかった。しかし、「慣れたから」というだけで秋学期のオンライン授業が問題なく受けられたわけではないようだ。むしろ「春学期は慣れない不安な環境の中で、どちらかという

と必死でアドレナリンが出ていたような状態で受けられたけど、秋学期は秋学期で別の問題があった」(松本さん)という。アンケートによると、授業のクオリティについては「教授から生徒への一方通行の講義になってしまった」「コメントシートで分量を求められて大変だった」一方、「オンラインだから低下したとは思わない」「大事にしたい『対話』や『クリティカルシンキング』ということは絶対にぶれず、教職員の皆さんが試行錯誤して下さっていることに対して、とても感謝している」と肯定的評価も多かった。それでも「春学期より精神的にきつかった」という声が聞かれた。「教室に行けない」ことが意外なところで小さなストレスになっていたからだ。

たとえば授業の内容について先生や友人に質問したいと思っても、コロナ

以前のようにさっとコミュニケーションをとることが難しくなったそう。対面授業であれば知り合いを見つけやすかったり、クラスに数回いけば顔なじみの人ができたりするのに対して、オンラインではそれが難しい」(松本さん)からだ。ちょっとした疑問をその場で解消できることが、いかに大事だったかを再確認した、ということだろう。授業の外での学びへのサポートが減ったと感じるなかで、オフィス・アワーを設定してくれたりの措置はありがたいと思うが「予約が必要だったりと、使いにくい面もあった」(鄧さん)という。

ハイブリッドという試み

秋学期で登場したハイブリッド方式。津山さんが受けたハイブリッドの「先端データサイエンス」は4年生向けの内容で、履修していたのは20人弱だったが、「対面を希望する人はほとんどいなかった」ことを受けて、学生も納得のうえ、結局オンラインで開講することに変更された。オンラインに変更されないまでも、対面を希望する学生が少ないハイブリッドの科目は、「授業に出てみて、知り合いがいないと、やはり残念に感じてしまう」のが難しいところだ。さらに、もし自分の履修科目で対面授業がほかにない場合、「1科目の対面授業だけのために学校に行くのは、なかなかつらいと感じる学生も多かったのかもしれないです」(津山さん)。

一部のハイブリッド科目では、対面を選択した学生がそれなりにいたものの、天気が悪かったり、期も後半に入ってくると、教室に来る学生の数が減っ

ていったケースもあったようだ。「対面を選んだのなら、何があろうと授業に出続けるべきで、それは本人の学習意欲の問題」と言われそうだが、ハイブリッド科目の開講数が少なかったことが学習意欲に影響した面もありそう。開講数の半分とか、一定以上の数がハイブリッド授業なら、対面を選択する学生も増え、その結果友人にも会えるだろうからありがたい」(津山さん)との期待が持てるが、秋学期に限って言えば、そうした期待を持つことは難しかったのかもしれない。

成績評価の方法

大半がオンライン授業だったことに関係がありそうだが、期末にレポートを課す先生が多かったという。学生にとってはテストよりも時間がかかり期末の2週間ほどは大変だったそう。森川さんは期末試験がオンライン試験だったが、肝を冷やした。実家から受けていたが、通信環境が若干不安定で、それまでも途中で切れることがあったそうだが、試験の際も調子が悪く、「問題が音声で届く形式の試験だったので、通信の不具合で問題が聞こえなかったら答えようがない」と焦ったという。幸い、試験終了まではなんとかもったそう。

オンラインのための環境を整えきれず、スマホなどで授業を受けていた学生もいたそうで、必ずしも学習のための条件が均一に整っていたわけではないようだ。そうしたことも考慮に入れると「成績評価基準を緩和するという考え方があっても良かったのではないか」(鄧さん)という意見もあった。

サークル、アルバイト……

授業以外の大学生活もコロナで変わった。

実家に戻っていた石井さんは、高校時代の友人は東京など進学先に残っていた人が多く、友人と会うことはなかったという。ICUでは寮費は学期ごとに支払うので、学期を通してまるまる帰省すると決めたら寮費の支払いは不要だが、友人たちは寮ではなくマンションなどを借りているので、帰省したら無駄になってしまうから、帰りがたくても帰れなかったそう。「実家では家族との時間が長く、個人的には楽しく過ごせました」と振り返る。

「友人とは意外に会いませんでした」というのは鄧さん。平日はそれぞれに授業などがあるから、そうそう会えないのはわかるが、かといって週末に会っていたわけでもなく、「たまに電話をしたぐらい」だったそう。サークルで顔を合わせたり、同じ授業に出ることですつながっていた関係が、オンラインになったことで弱められたのかもしれない。

サークル活動も濃淡があった。津山さんはディベート部所属だが、「コロナに対する意識は家庭によってバラバラで、家族が反対する友人とは遊ばず、ディベート部の活動は全てオンラインとなり、友人との交流が薄れてしまった」と残念がる。

松本さんはコーラスのサークル所属。合唱はリスクが高いとみなされてしまったので、メンバーが個々人で練習・録画したものを編集し、12月にYouTubeでオンライン公演を実現したが、「やはり少し消化不良な気持ちがあった」という。運動系のサークルはだいたい普段通りの活動なのをみると、「何とも言えない思いになります」。

コロナで不透明になる人生設計

森川さんは休学してアフリカのルワンダに留学する計画を立てていた。NPOが現地でインターンやボランティアを募集しており、アートやファッションで雇用を生み出す活動などに飛び込んでみるつもりだった。ご実家の家族はみんな反対だったそうだが、あきらめずに話を続けた結果、「母は『私は反対し続けるけど、もう私の言葉は無視して行きなさい』と理解してくれた」ところまでこぎつけた。それが、コロナで動けなくなってしまった。

松本さんも2021年9月から休学して米国東海岸の大学に留学する予定だったが、コロナのために少なくとも今年は行けなくなってしまった(米国は外務省による渡航中止勧告対象国)。今のところ「2022年に延期」の方向だが、それまでに渡航できるようになるのかもわからない。「留学できたら23年卒、できなかったら22年卒と卒業年度がはっきりしない中、就職活動もしなければならぬことが少し不安」と話す。「今は留学できなかった

文部科学省は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた2020年夏の調査で対面授業の割合が半分未満だった大学・短大377校に行った再調査の結果を2020年12月23日に公表した(授業の実施状況は10月20日時点)。

対面と遠隔の割合は「おおむね半々」が最も多く146校(38.7%)、ICUを含む122校は対面が「3割程度」、64校(17%)は「ほとんど遠隔(対面2割以下)」と答えた。「全面遠隔」だったのは国際教養大1校。対面が半分未満だった大学・短大の合計は187校(49.6%)。

秋学期の授業開講形態別比率について大学に問い合わせたところ、秋学期開始前の時点で「全科目(学部・大学院・卒論指導を含む)の約6割がオンライン式での開講、約3割がハイブリッド式での開講、約1割が対面のみでの開講予定」だったという。ただ、当初ハイブリッドとされていたが、受講予定学生がほぼ全員「オンライン希望/どちらでもよい」との回答であったため、オンラインに変更された授業もある。



1回目の座談会の様子。石井さん(左上)、鄧さん(下)、津山さん(右上)



2回目の座談会の様子。左から松本さん、森川さん

場合のために 22 年新卒で就活を始めています」。

1 年生への気遣い

入寮予定だった新 1 年生は秋学期に入ってようやく入寮できるようになった。前号でご紹介した菊池笑さんは、冬学期から入寮した。人によっては ICU 生になって半年以上たってからようやくキャンパスに足を踏み入れたことになる。

今回インタビューした 5 人の中には 1 年生はいないが、先輩の目からみて心配なことがある。ICU という小さな大学ゆえの良さをなかなか実感できないのではないか、ということだ。

たとえば授業や宿題でわからないことが出てきたときの対処方法。すでにここで 1 年、2 年と過ごしている自分たちは、たいていの授業で 1 年時のセクションメイト（4 月生の場合）、寮、サークルなどさまざまなチャンネルを通じた友人知人が何人かいるから声のかけようはあるが、「1 年生はベースになるコミュニティがまだないから、ゼロからのスタートで大変だと思う」（松本さん）。また、コロナによる学びの場の混乱に対する大学の教職員の対応や同窓会からのサポートを松本さんたちは「ICU というコミュニティの

つながりの深さ」として受け止めているが、「オンライン授業が続くことで、1 年生はそれを感じにくくなっていないだろうか」と心配する。

就活にも影響

就職活動もコロナの影響が直接的に出ている。報道されているように、業種によっては採用人数の大幅な減少があるほか、面接もオンラインが増え、対面とは違う緊張を強いられる。

一方、「オンライン就活」の良さもある。説明会や面接がオンラインになることで、移動が不要になり時間も交通費の負担も大幅に軽減される。また、企業の人事担当が大学まで出向いて就職説明会を開催する場合、ICU の「ハンデ」がやや解消されているそう。 「ハンデ」とは、「三鷹は遠い」というイメージが採用側にあるのと、大学の規模が小さいため、説明会を開いても大きな大学に比べたらどうしても応募者の数が少なく、「効率が良くない」と思われている点だ。しかし、オンラインなら企業側もこうした「悪条件」をあまり気にせず採用活動ができるわけだ。昨年 11 月の秋休み期間中に開催された学内企業研究イベント Placement Week（P-Week）はオンライン開催となり、約 90 の企業・機

関が参加したが、人気企業も結構来ていたそうだ。

ただ、コロナ対策としてオンライン中心にならざるを得ないことは理解できるし、メリットもあるとはいえ、割り切れない部分も残る。たとえば松本さんは「やはり対面でないとじっくりこないこともあり、このまますべてオンラインで就活が完結するのは嫌だなと思います」と感じている。

大学に求めたいこと

寮に入っていない地方出身の学生にとって、借りている部屋をどうするかは切実な問題だ。キャンパスに入れず、授業もオンラインが多数を占める状態がどのくらい続くのかの見通しを可能な限り早く提示してもらわないと、引き払うのか継続して借りるのかの判断ができないからだ。

津山さんは米国に留学していたが、コロナの感染拡大を考慮して、期の途中である 3 月に帰国した。授業は帰国後もオンデマンドのオンラインで続いたが、あちらでは「今の期はこのままずっとオンラインです」と早い段階で連絡をもらえたのが良かった、と振り返る。

対面授業の良さは理解しつつも、コロナがおさまらなるとすれば、対面授

業のリスクを心配するのは石井さん。秋学期には新 1 年生は ELA が一部対面授業となったが、休み時間に廊下などでグループで固まって話していたことが問題になったことがあったという。ただ、もっと慎重に換気や手指消毒、マスク着用を徹底したとしても、授業ごとに一緒に学習する人が入れ替わることが続くとなると、感染リスクが残るのではないか、ということだ。

さらに変わる？ 授業形態

大学は今後の授業形態をさらに改善できないかを模索している。2021 年の春学期をどのような方針のもとで進めていくかは 2 月中旬には明らかになる見通しだが、年末年始の感染急拡大とそれに続く緊急事態宣言発出がどう影響するか予断を許さない。

秋学期に開講されたハイブリッド形式の授業が春学期には大幅に減り、対面形式が拡充されるとの観測もあるが、流動的だ。

2021 年も卒業式が開催できるか、不透明になってきた。卒論の提出も PDF で、となるかもしれないという。「でもせっかく ICU に入学したので、卒業式はガウンに角帽をかぶって出たいです」という在学生の無邪気な願いはかなえられるだろうか。

あなたのご意思の実現に向けて、サポートいたします。

三井住友信託銀行の遺言信託

三井住友信託銀行の遺言信託では、皆さまの財産に関するご意思を正確に反映する遺言書作成のご相談や、遺言書の保管※・遺言の執行などを一貫してお引き受けいたします。まずは財務コンサルタントまでご相談ください。

※自筆証書遺言を作成する場合、自筆証書遺言書保管制度を利用し、遺言書は法務局にて保管します。

【遺言信託（執行コース）手数料等について（消費税等込み）】（2020年12月1日現在）

〈お申込時〉基本手数料：330,000円 別途、公正証書作成費用、戸籍謄本など取り寄せに関する費用等が必要になります。

〈遺言書保管中〉遺言書保管料：毎年6,600円 〈遺言執行時〉遺言執行報酬：当社所定の報酬を申し受けます。（最低報酬額：1,100,000円）上記はお支払プランの一例です。他のお支払プランもあります。詳しくは、窓口までお問い合わせください。

◎国際基督教大学と当社は「遺贈による寄付制度」の提携をしています。

この制度により遺贈をされる場合は基本手数料が5万円割引となります。ご相談の際にお申し出ください。

お問い合わせ・資料のご請求は

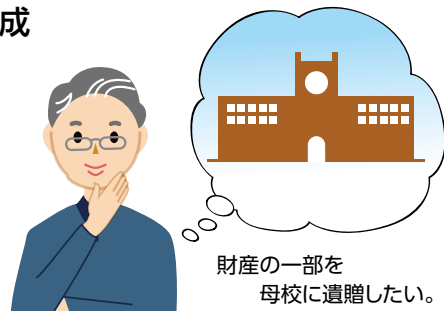
0120-181-536

受付時間

平日9:00～17:00（土・日・祝日および12/31～1/3はご利用いただけません）

三井住友信託 遺言信託

検索



その人を信じて、その人に託す。 Meet The Trust Bank



三井住友信託銀行

授業形態の決定、依然難しい面も 石生義人 教養学部長に聞く

授業をどのくらいオンライン、ハイブリッド、対面で開講するかは、コロナの感染拡大状況にもらみながら決めていくという、困難な判断が求められる。秋学期以降の大学の考え方を、教養学部長の石生義人教授にうかがった。

文：新村敏雄（本誌） 写真：パブリックリレーションズ・オフィス提供

—— 秋学期に開講したハイブリッド授業は新しい試みでしたが、いかがでしたか？

石生：全科目（学部・大学院・卒論指導を含む）の約3割がハイブリッド式でした。ハイブリット授業は学生にとって自ら選択できる自由があり、対面、オンラインどちらにも対応できるフレキシブルな授業形態です。実際には、対面を希望する学生が多かった授業もあればオンラインを選択した学生が多かったものもありました。基本的には最初に選択した方法で学期を通して受講することになっていましたが、担当教員の判断で、対面かオンラインかを固定せず、初めに対面を選択したものの途中からオンラインに切り替えた学生も、その逆もありました。

ハイブリッドで開講した授業は、教室の定員に鑑み履修する学生数が60人を超えない、という条件で決めました。教室で密になることを避けられるかどうか、が基準です。

ただ、教える側は難しい面もありました。オンラインの学生と教室にいる学生に同時に話すわけですが、オンラインの学生を意識すればパソコンを見がちになり、教室の学生を意識するとパソコンから視線が離れます。パソコ

ンのほかにスマホでもログインして教室の様子はスマホで「中継」しながら授業を進めるなど、各教員が工夫をされていて、「ハイブリッドはそうした点が大変だった」との声が出ていました。それでも、「対面もオンラインもどちらも学生のニーズなので、なんとか両方にこたえてあげたい」「対面で学生の顔をみたい」という強い気持ちを持っている先生が多かったので、乗り切ることができたと思います。

—— 体育や理系の実習は対面だったそうですが。

石生：必修の体育科目はオンラインと対面を選ぶようにしました。対面で受けた学生は「友人などに会える」と喜んでいました。全授業におけるオンライン、ハイブリッド、対面の比率については、何をもち「安心」と考えるかが人によって異なるため、「もっと対面を増やしてほしい」「オンラインをもっと増やすべきではないか」とさまざまな意見が寄せられました。

—— 次の春学期は、まだ不確定要素はあるとしながらも「ハイブリッドは原則、開講しない」との暫定方針がポータルサイトに出ています。

石生：11月ごろ検討を重ね、そのような方向性を暫定的に決めました。た



石生 義人
(ISHIO, Yoshito)

2000年国際基督教大学助教授として着任、2012年から教授。2016年9月～2019年3月学生部副部長。2020年4月より教養学部長。専門は社会学、おもに、アメリカ人の愛国心に関する研究。

だ、その時点では、現在のような急激な感染拡大は起きていなかったため、感染状況がある程度コントロールされているだろうという前提で春学期には今より多くの学生にキャンパスに来てもらえる、との期待があったわけです。現時点ではハイブリッドは春学期も継続する予定です。（春学期の最終方針は2月中旬に公表）

—— 学生からは「オンラインだと、ちょっとしたことを先生や友人に聞くのが難しい」といった悩みも聞きました。

石生：秋学期からキャンパスへの立ち入りをオープンにして、（授業以外で

も）インフォーマルな関係を維持でき、コミュニケーションが偶然起きるような環境も意識しました。やはり「雑談」のようなコミュニケーションの重要性が、改めて認識されたと感じます。そうしたことができにくくなるのが、オンラインの課題なのでしょう。

腰痛・頭痛・自律神経失調症を改善したいあなたへ

ICU卒業生の佃隆（44期ID00）とパートナーの佃美香が27年間運営しており、毎年1万人以上の方が来院されています。三鷹駅南口徒歩1分の当院には、ICU関係者の方が来院者の4割を占めています。当院では、関節の動きが鈍く神経の流れが悪くなっている箇所とあなたの症状との関連性を分析し、症状の原因を特定します。独自のつくだ式カイロプラクティックケアによる治療、「『姿勢の魔法』シャキーン!」メソッドによる知識、分子整合栄養医学による栄養の3本柱によって、症状改善だけでなく、姿勢矯正、ひいてはあなたの理想の暮らしを送る健康サポートをします。ICUとご縁のあるあなたのお役に立てましたら幸いです。

ファミリーカイロプラクティック三鷹院

「ICUアラムナイニュースを見て…」とお電話ください。〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-24-7 平嶺ビル301号室

tel **0800-888-4270** 受付時間 ▶ 8:30～20:00

web <http://mitaka-chiro.com>



当院院長佃隆は

■1日3回で、ねこ背がよくなる「姿勢の魔法」シャキーン!
■姿勢をよくすると、人生がきらめく!
の2冊を出版しております。



海外の同窓生へのインタビュー

新型コロナウイルスによる影響は、世界中に及んだ。各国政府の対策が注目された2020年だが、海外に住む同窓生はどのような生活を送っていたのか。今回は、ヨーロッパ、アジア、米国に住む3人の方々に、現地の政策や仕事への影響、そして日本とどのような点が異なるのか、昨年末にお話を伺った。

文：水野愛子（本誌） 写真：それぞれ本人提供

米国から

高田亜樹 (35 ID91/G1995)
TAKADA, Aki

2016 年より日本国際基督教大学財団（JICUF）勤務。1998 年よりニューヨーク在住。日本政府国連代表部、国連開発計画コンサルタント、出版翻訳業、個人事業経営を経て現職。

—— 米国のコロナ政策について教えてください。

高田：米国では連邦政府と州政府の政策があり、住んでいる場所によって状況は異なります。ニューヨーク市（以下、NY）では、2020 年 4 月に感染者数がピークに達し、その後 5 月から夏にかけて激減しました。しかし、11 月に再び増加しました。NY は第三波ではなく、第二波が来ている状況です。

3 月半ばにロックダウンが実施され、いわゆるエッセンシャルワーカー以外の外出が禁止されました。以来、買い物と健康のための散歩以外は外出していません。

NY の公立校（小学校から高校）は 3 月半ばから 6 月末まで閉鎖され、100% オンライン授業が行われました。9 月からはオンラインか対面かの選択制になりましたが、高校生の娘はオンラインを選択しました。また、娘は本来ならば SAT や ACT といった、大学進学に必要な学力試験を受験する歳ですが、NY では年内の試験は全てキャンセルされました。

—— お仕事ではどのような影響が出ましたか。

高田：JICUF のオフィスには、昨年 3 月以来一度も行っていない。

JICUF は、奨学金、助成金、「グローバルリンク」という ICU の学部生の

ためのサマープログラムを提供していましたが、渡航制限により、プログラムの多くが影響を受けています。そこで、先秋よりオンラインで実施できるイベントを導入するといった対応をしました。

オンラインプログラムは、世界で活躍するアラムナイスピーカーを招いた「グローバル・アラムナイ・スピーカー・シリーズ」、国連職員などの専門家とディスカッションを行う「日本と SDGs」を実施してきました。

いずれのプログラムでも課題になったのは、学生にアプローチする方法が少ないということです。参加した学生からは好評だったのですが、もっと多くの学生が本イベントを知ってくれたら、と思わずにはられません。

アラムナイ・スピーカーとしてご登壇いただいた同窓生の話はエネルギーに満ちあふれ、また、学生の側から、将来に対する前向きな姿勢がうかがえ、コロナ禍の悲壮感はありませんでした。

—— 日本と異なると感じたのはどのような点ですか。

高田：NY では、エッセンシャルワーカーへの感謝の気持ちを示すことが、当たり前のように行われていました。例えば、昨年の春から夏にかけて、毎晩 19 時になると、街中で彼らに対す



る拍手が起こり、私も窓を開け放ってスタンディングオベーションをしていました。なかには、トランペットを吹く人やオペラを歌う人もおり、行き交う車はクラクションを鳴らし、誰もが精一杯の声援を送りました。日本の一部の地域では、医療従事者の子どもが学校でいじめに遭うといった報道がありました。信じられません。

海外の報道では、トランプ政権の動向ばかりがクローズアップされている

ようですが、市民の感謝の心や協働の精神が日常を支えていると感じます。コロナ禍の中で、ICU が目指す「グローバル市民」のあり方について考えさせられます。危機において、人を尊重し、助け合う姿勢がいかに大切か、そしてこのような時こそ真のシティズンシップが求められ、ICU コミュニティに属する我々一人一人に活躍の場があることを実感しています。



PEACEMIND

私たちは、「はたらくをよくなる®」会社です。

ピースマインドは、「はたらく人が抱える『不』を解決し心豊かな未来を創る」をミッションに 1998 年に創業した「はたらくをよくなる」ソリューションを提供している企業です。職場のメンタルヘルス・健康経営の推進、ハラスメント対策等の人と組織に関する課題をお持ちの経営者、人事の方からのご相談をお受けしています

また、当社のビジョン実現に向けて、国内外のグローバル企業の成長支援と一緒にチャレンジしてくれる仲間も募集しています。



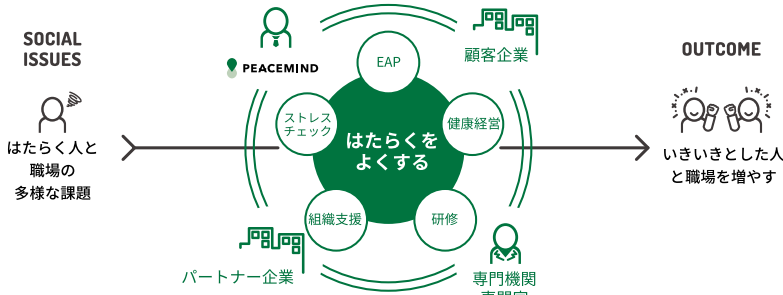
ピースマインド株式会社
代表取締役社長・共同創業者
萩原 英人 (ID00)

Working Better Together®

「はたらくをよくなる」ために、働く人と職場を支援する様々な専門サービスをご提供しています。

SOCIAL ISSUES

はたらく人と職場の多様な課題



OUTCOME

いきいきとした人と職場を増やす

EAP従業員支援プログラム	研修	ハラスメント対策支援	ウェルネスプログラム
ストレスチェック	クライシス支援	休職・復職者支援	健康経営支援

サービス開始から

お取引企業

外資系顧客構成比

22年

1,200社/年

35%

03-3541-8660

<https://www.peacemind.co.jp/>



<https://note.com/peacemind>



ピースマインド社内の「はたらくをよくなる」取り組みを note でご紹介しています。ぜひご覧ください。

管理部 人事総務グループ長
小島 真理 (ID87)



ヨーロッパから:ノルウェー

奥貫則子 (27 ID83)
OKUNUKI, Noriko

2005年8月から現在まで、ノルウェーの中部にあるトロンハイム市（人口約20万人）在住。
2010年に自治体公認の観光ガイドの資格を取得。以来、英語客や日本人団体客向けの観光案内に携わる。



長女のまり恵さん（右）と

—— ノルウェーのコロナ政策について教えてください。

奥貫：日本の緊急事態宣言より早く、3月半ばに実質的ロックダウンと国境封鎖が行われ、生活は激変しました。私が住んでいるトロンハイムは大学街なので、教育機関がすべて閉鎖されて学生が去った後、街は閑散としていました。

政府は早い段階からリーダーシップを発揮していたため、生活の不安に悩むことは少なかったです。たとえば、初夏にかけては毎日、首相や主な閣僚が定例記者会見を行っていました。

医療については、検査体制がしっかりしているので安心感があります。発熱や濃厚接触などの大きな理由がなくとも、いつでも何度でも無料でコロナ

検査が受けられます。私も、9月初めから既に2回も受けています。

11月以降は、再び感染者が増えています。12月21日には、政府が感染追跡アプリの再導入を発表しました。また、クリスマスや年末年始に私宅に招けるゲストは5人まで、といったガイドラインも発表されています。

トロンハイムも、大学生たちが期末試験に向け自宅で勉強していた時期は感染者があまり出なかったのですが、試験期間終了後、急激に増えています。

—— お仕事ではどのような影響が出ましたか。

奥貫：私は、10年前に資格を取り、地元公認の観光ガイドの仕事をしてきました。2020年は、3月第一週に2件の日本人グループのガイド案件を最後に、仕事はゼロになりました。さらに、3月半ばから4か月間の国境封鎖で観光客が訪れることができず、3月末で契約先からレイオフされました。12月には、その契約先の組織さえリストラ断行で、観光案内部門がなくなりました。

私は観光ガイドの仕事が好きだったので、いつ観光客が戻ってくるのか、コロナ後の新しい観光スタイルはどう

なるのか、自分はどう適応できるのか気がかりです。

—— 日本と異なると感じたのはどのような点ですか。

奥貫：陸続きの欧州で、3月に次々と各国が国境を封鎖した際には、島国日本にない厳しさを実感しました。ノルウェー人は休暇中に旅行するのが好きなので、国境管理の厳格化や緩和の影響は大きいです。私個人も、日本に高齢の母親がおりますので、自由に行き来できないことは悩ましかったです。高緯度に位置するため、日照時間が精神面に及ぼす影響も大きいように思います。春分の日以降どんどん日が長くなり、白夜の夏であることで、明るい気持ちでいられました。逆に、秋分の日以降は、夜が長くなるので、気がめいつてしまいます。

外国人として暮らしている身には、コロナを機に人間関係の厳しい選別が行われたような気がして、ちょっと寂しく感じました。命をかけられるほどの友人関係なのかという本音レベルで、人間関係において見えないアクリル板が立てられた感じがします。

アジアから:マレーシア

小野澤麻衣 (40 ID96)
ONozawa, Mai

1996年より、日本貿易振興機構（JETRO）に勤務。2003年よりタイに赴任、その後も主にASEANに関する事業を担当し、2018年よりマレーシアにて勤務。

—— マレーシアのコロナ政策について教えてください。

小野澤：3月の第一波でマレーシアは、世界の中でも厳しい行動制限措置を取りました。食品製造、医療関連等のエッセンシャル業種以外の企業への一切の操業停止や、国民への行動制限の通達が出て、違反すると罰金が科されました。外出は医療機関受診と食品買い出し以外は厳しく制限されたため、ジョギングに出ることさえ不可能でした。

10月以降の第三波は、最初は東マレーシアサバ州でのクラスターがきっかけとなり、その後首都圏に拡大しました。依然として新規感染増は続いており、12月に入り1日1000～2000人という状態が続いています。

マレーシアの総ベッド数は6万床と言われ、人口当たりの数は日本よりとても少ないです。新規感染が減らないことから、コロナ用に確保した病床占有率もひっ迫しつつあります。また、12月から外国人労働者の感染検査が義務化されたことから、状況は悪化しています。マレーシアでは、陽性者は指定施設にて隔離となっていますが、現在政府は無症状陽性の場合は自宅隔離も検討し始めています。

今後気になるのは、感染を抑えながらどこまで経済振興を維持していくか

です。現在の政府は少し国内保護の方向性が高まっており、気がかりです。フィリピンのように、こういうときこそ外資企業をうまく取りこみWINWINに経済活動を推進することが国の経済を復興させるのではと考えています。

—— お仕事ではどのような影響が出ましたか。

小野澤：第一波当時は、JETROに朝から晩まで問い合わせがひっきりなしでした。たとえば、政府の入国制限について、どのように手続きを進めればよいのかといった相談もありました。このような、企業の人員確保にもつながる問題に対し、日本大使館や日本人商工会議所と連携し、マレーシア政府にアプローチし続けています。

9月頃になり、ようやくマレーシアで新しくビジネスをやりたいという相談が出てきました。日系企業がマレーシアで事業を始める際、情報収集が必要となります。たとえば、マレーシアの最新のビジネストレンド、規制の情報、手続き、キーパーソンを探すなどです。情報収集では、実際にマレーシアを訪れ、現地の雰囲気を感じながら人脈を築く必要があり、オンライン面談だけで進めていくのは厳しく、できる限りお手伝いをしています。

他方、日本から輸出したいという話も増えています。コロナ以前はマレーシアで商談会を実施していましたが、現在はオンラインでの商談会に挑戦しています。

—— 日本と異なると感じたのはどのような点ですか。

小野澤：マレーシアは普段から政府の統制が厳格ということ

ではありませんが、コロナに関する規制は厳格でした。政府の徹底した感染予防策に対し、国民からは最初は反発がありましたが、感染者数が抑えられたこともあり、6月あたりからはお互いの歩み寄りが見られた印象です。

マレーシアは、マレー系、中華系、インド系と大きく3つの民族から構成されています。民族の多様性という面では、ASEANの中でも珍しい国です。



レストランの操業も政府による標準手順書に厳格に従っているという

コロナの対応でも、特に中華系は外出などにとっても慎重でした。そういった民族間で対応差が出たのもマレーシアの特徴だと思います。

暮らしに関しては、スーパーなどは開店していたため、日本のように第一波の際にスーパーの棚が空になるということはありませんでした。新しい動きとしてデリバリーやEC（電子商取引）の利用が増えています。

第6回ICU同窓会リベラルアーツ公開講座 ICU学長 岩切正一郎氏が語る 「もう一つの現実世界」

2020年12月5日(土)、「第6回ICU同窓会リベラルアーツ公開講座 もう一つの現実世界」(ICU同窓会主催、ICU協賛)が開催された。講師は学長の岩切正一郎氏。人間の内面に作られる「もう一つの現実世界」について、多彩な図版やさまざまな古典からの引用を交えて語った。新型コロナウイルスの感染状況の悪化を受けて、一般参加者はオンラインでの視聴となったが、日本各地はもとより海外からの参加も得て、高校生を含む幅広い年齢層の計145人が耳を傾けた。

文：太田順子(本誌) 写真：新井亮一(32 ID88)



岩切正一郎

IWAKIRI, Shoichiro

ICU 教授(フランス文学)、詩人。1959 年宮崎県生まれ。東京大学文学部フランス語フランス文学専修課程卒業、同大学院博士課程満期退学。パリ第7大学 DEA。1996 年 ICU に着任、2020 年 4 月より現職。フランス語戯曲翻訳者として多くの舞台制作に参加。主な戯曲翻訳に蜷川幸雄演出によるアヌイ『ひばり』、カミュ『カリギュラ』、栗山民也演出によるジロドゥ『トロイ戦争は起こらない』など。第 15 回湯浅芳子賞(翻訳・脚色部門)受賞。主な著書に『さなぎとイマーゴ ボードレルの詩学』、共著に『舞台芸術の世界を学ぶ』、詩集に『HAPAX』など。

〈夢〉と想像力の世界へ

「私は夢のなかで蝶になったのか、それとも自分は蝶が夢見ている莊周という人間なのか」。講演は、「胡蝶の夢」(『莊子』B.C.4-3)の引用から始まった。洋の東西を問わず、豊かな幻想の源泉でありつづけてきた〈夢〉。

一方、「あいまいなもの」の代表でもある〈夢〉は、たとえばデカルトが懐疑主義の徹底の果てに「私は考える、だから私は存在している」(『方法序説』1637)と自意識の実存への確信に至ったように、哲学が存在の現実性を問う際には虚しいものとして退けられる。

しかし、芸術の世界では、むしろ〈夢〉にリアリティが与えられる。フランス文学におけるそのもっとも壮大な例は、夢で薔薇に恋した詩人が、その体験を4000行あまりの詩につづった『薔薇物語』(13世紀)だろう。

19世紀にはネルヴァルが「〈夢〉は第二の人生である」(『オーレリア』1855)と書き、20世紀にはセリヌが「目を閉じさえすればよい／すると人生の向こう側だ」(『夜の果てへの旅』1932)と記した。80年の時を隔てて、二人の作家はともに「〈夢〉や想像力の世界」を実人生と対置して

いる。岩切氏は、「まるで現実の世界のなかで一度、死ぬ(眠る・目を閉じる)ことによって、もう一つの現実である夢や想像力の世界のなかで生きる、と暗示されているようだ」と指摘した。

〈言葉〉への懷疑

想像力の産物といえば、神話もその一つである。ギリシャ神話で、プリギュアのミダス王は、半人半馬の山野の精霊シーレーノスに、人間にとって一番良いものは何か、と問う。それに対し、ゼウスの息子ディオニューソスの養育係でもあったこの精霊は、この世界に人間ほど惨めな生物は他になく、一番良いのは、生まれないこと、生まれてしまった者にとってはできるだけ早く死ぬことだ、と答えた。

このシーレーノスの教を深刻に受け止め、一見、生命への歓喜あふれるギリシャ神話のなかに、当時の民衆が抱えていた「生きることへの苦しさ」を鋭く感受したのがニーチェだった。岩切氏はこう述べ、『悲劇の誕生』(1872)に即して次のように説いた。

古代ギリシャ人は、シーレーノスの言う「惨めさ」を乗り越え、「生」を肯定するために、造形芸術の原理である「アポロンのなもの」によって「美しい仮象」、つまり「オリンポスの神々

の〈夢〉の世界」を創り出した。と同時に〈陶醉〉によって個を根源的なものへと回帰させる、音楽芸術の原理である「ディオニューソス的なもの」も求めた。その両者がせめぎ合い、融合したものが、ギリシャ悲劇だった。

だがその後ニーチェは、〈夢〉は世界を二分する思考の起源だとして、〈夢〉の効用と距離を置く(『人間的、あまりに人間的』1878)。そして、〈夢〉をみながら世界を解釈する詩人や作家が、〈言葉〉によって作り出す「第二の現実世界」を自己欺瞞の産物とみなし、そこに真理はないとした。

「真実の生」を生きる

このニーチェの言葉に対し、岩切氏は「むしろ、作り物の世界に生きる〈私〉なしに、第一の現実世界で私が生きることには難しい」と異を唱える。そして、アポリネールの詩句にやどる音楽性に触れ、詩人が差し出す言葉の響きによって生み出される神秘的なイメージ、それが、自身のなかに形成されている「第二の現実世界」であるとし、『「第二の現実世界」は、〈夢〉や想像力によって造形された世界に、読む者が〈神秘〉を見出したときに生まれるものなのではないか』と語った。

さらに岩切氏は、「第二の現実世

界」について深い考察を加えた作家としてプルーストを挙げ、次のように述べた。

『失われた時を求めて』(1913-27)と言えば、主人公が、紅茶とマドレーヌの味から忘れていた少年時代の幸福な記憶を一気に思い出すエピソードが有名だ。この「無意志的記憶」の想起は、つねに偶然のきっかけによってもたらされる。期せずして現在と過去、二つの時間の感覚を同時に感じている、その「超時間的な、場所とも言えない場所」にいるときだけ、〈私〉は物事の本質を、本当の〈現実〉を味わうことができる。プルーストは、生きるとは、その〈現実〉を生きることにはかならず、その「真実の生」を明らかにするものが文学なのだと書いている。

そして岩切氏は、経済至上主義に覆われたこの世界にあって、我々がより本質的な生を生きるには、自分を深いところで支える「第二の現実世界」を持つことが欠かせないのではないかと問いかけ、次のプルーストの言葉を引き、講演を結んだ。

「人が自分の内部で到達した真実のまわりには、常に詩の雰囲気と、神秘的なものの持つやさしさが漂うだろう」(『見出された時』1927)。



左から：カラッチ「バックスとアリアドネーの勝利」(1597-1602。ロバにまたがっているのがシーレーノス)／マルセル・プルースト(1871-1922)



制作に関わった演劇作品(一部)



DAY賞受賞スピーチ、オンラインで開催

2020年の桜祭りは、新型コロナの影響により大学での開催が中止され、同窓会総会はオンラインで実施された。桜祭りのイベントのひとつであるDAY (Distinguished Alumni of the Year) 賞表彰式も中止となったが、およそ8カ月後の11月21日、恒例の受賞者スピーチがオンラインで実施された。(受賞者のエッセイは同窓会ホームページにすでに掲載)

文：新村敏雄 (本誌)

第15回となるDAY賞は5人の方に送られた。本来なら大学礼拝堂で開かれるはずだった受賞者スピーチは、コロナの収束が見通せないなか、初の試みとしてオンラインで届けられた。同窓生ではひと桁期から2019年まで、また他大学のご出身者も含まれ、多様性のある顔ぶれとなった。その様子をご紹介します。

ICU以外の選択肢はなかった

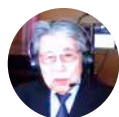


トップバッターの茅野友子さん(58年卒・72年院修了)は、2016年(第11回)受賞の茅野徹郎さん(57年卒)の妻で、DAY賞では初のご夫婦での受賞。今回は録画によるご参加となった。

高校2年の時に初めてICUの存在を知って以来、ICUとは68年にわたるご縁とのことで、「切っても切れない存在。他の選択肢はありませんでした」との言葉に力がこもる。「自分が学ぶ場はここ以外にはない」と感じられたという。

2019年11月に『シェイクスピアの時と我々の時』と題する著書を上梓されるなど、現在も研究生生活を継続されている茅野さん。スピーチの締めくくりに「今後も研究と交流の場として守り育てていきたい」と言及されたペディラヴィウム会(一般社団法人)は、「創学期の国際基督教大学において、イエス・キリストの福音に根ざした真理の追求と豊かな人間教育の理想に献身された神田盾夫先生ご夫妻の薫陶を受け、その精神を継承し、新たに展開していくことを自らの使命と受けとった者たちにより1972年6月に発足」(同会ホームページ<http://pedilavium.sblo.jp/>より)した組織。茅野さんが「自己形成期」と呼ばれたICUでの4年間が、今につながっている証しと言える。

Alma mater はICU



お二人めは村上陽一郎先生(72-08年在職 国際基督教大学・東京大学名誉教授)。同窓生以外のDAY賞受賞は故古屋安雄先生に次いでお二人目となる。村上先生はフルタイムの教授としては大学院も含めて13年間在籍されたが、それ以前にも科学哲学ご担当の非常勤講師として長年教鞭をとられてきたことから「自分にとってalma mater(母校)という言葉はICUにあてはまる」とおっしゃられた。そのため「心情的にもDAY受賞はありがたく嬉しいこと」とも述べられた。

印象に残っていることとして紹介されたエピソードが、着任して最初の日の出来事。同僚の先生方と話しているとき、何気なく「研究・教育」という表現を使ったら、「ICUでは順番が逆(教育・研究)です」と指摘されたそう。だ。「教員一人あたりの学生数が国内で1、2を争う、学生にとっては恵まれた環境」とともに回想された。最後にもう一度、「卒業したかしないかではなく、ICUはコミュニティでした」と結ばれた。

同窓会は大学の魅力づくりの一環である



続いてご登場の齋藤顕一さん(74年卒 フォアサイト・アンド・カンパニー代表取締役、問題解決力検定協会代表理事)は、2002年から06年まで第15代の同窓会会長を務められた。DAY賞は齋藤さんが同窓会長の時に設立した賞で、エッセイでは「自作自演になるのでは」と受賞をためらったと吐露されている。

「同窓会とは大学の魅力づくりの一環」というのが齋藤さんの同窓会観。大学(母校)の存在価値を世の中にど

れだけ伝えられるかが大事、という。

「問題解決的な思考」がご専門の齋藤さんは、いまのコロナ禍の中で、対人(個人)、対ビジネス、対社会のそれぞれで、どんな軸足を定めるべきかについて次のような提案を披露された。対人では「家族、友人、仕事仲間を、自分より大切にする」、対ビジネスでは「お客様第一主義」、そして対社会では「環境や弱者などの諸問題について、議論だけでなく、小さな貢献をしていく」こと、というものだ。その流れで言えば、同窓会は母校に対して貢献をしていくことが求められている、と結論づけた。

人の心動かす作品を



4人目の話し手、小泉明郎さん(99年卒 現代美術作家)はアーティストでは初の受賞。「本当に嬉しいと同時に、場違いなのでは、という気持ちもいまだにあって」と正直な感想をご披露。「でも、ある意味、型にはまらない人生もある、と励みにしていただければ」と受諾されたという。

コンテンポラリーアートの世界で活躍する小泉さんにとって、昨今の社会情勢は不安を抱かせるものがある。2019年8月に開催された国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」で自身の作品を含む企画展『表現の不自由展・その後』に電話やメールによる抗議が殺到し、開幕3日後に展示が中止になった。小泉さん自身、抗議に来た右翼と対話した際「なぜ不快なものを作るのか」と言われた。小泉さんの考えは「人間はきれいなだけではない。危険、不快なども含めて人間性を描くのが自分の仕事」というものだ。「結局、彼らとわかりあうことはできませんでした」と振り返る。「ただ、同じ場で議論し、互いへのリスペクトは生まれました」。その時思い出したのは、

考古学の授業でウィルソン先生から投げかけられた「この土器はなんのために作られたと思う?」という、簡単には答えられない壮大な質問だったそうだ。「やらなければいけないことは山積みですが、これからも見る人の心を動かす作品を作っていきたい」と決意を語った。

広がる格差を変える



最後のスピーチは山本和奈さん(19年卒 NGO Educate For 代表)。DAY受賞最年少記録となる。この日は地球の裏側、チリからの参加だった。チリは学生時代の留学先であるほか、現在立ち上げ中のブロックチェーンに関わる会社の所在地だ。

在学中、雑誌「週刊SPA!」2018年12月15日号に掲載された、タイトルを書くことも憚られるような女性蔑視の記事の取り下げなどを求めるネット署名活動を展開。賛同者は2万人を超え、編集部から謝罪を勝ち取ったことは新聞でも紹介された。

これがきっかけで、ジェンダーの平等を目指す一般社団法人Voice Up Japanを設立。卒業後も人権・ジェンダー問題に取り組んでいる。代表を務めるNGO Educate Forは子供の教育支援活動をペルーで展開中。

さまざまな活動の原点のひとつが、卒業式での日比谷前学長の祝辞だ。「世界には初等教育さえあきらめなければならない人もいる一方で、皆さんは十二分な教育を受けてきた。ここにいることができるあなた達には、責任があることを忘れてはいけない」。それを聞いて「格差が広がる現状を変えては」と思ったという。背中を押してくれた言葉を胸に「民主主義を守る活動を続けていきます」と改めて宣言した。

「ICUのPE」をテーマに 初のオンライン開催 2020ホームカミング

コロナ禍が収束する見通しが立たないなか、
2020年のホームカミングは初めてのオンライン開催となった。
今年のテーマは「PE・スポーツ・キャンプ」。
オンラインということで海外からの参加もあり、楽しいイベントとなった。

文：新村敏雄（本誌） 写真：ホームカミングプロジェクトチーム提供

10月17日土曜。オンラインホームカミングは群馬県のラジオ局、FM GUNMAの現役アナウンサー、木暮あかりさん（60 ID16）の司会で幕を開けた。「キャンプ大好き」という木暮さん、学生時代はジュニアキャンプのリーダーをされていたとのこと。

オープニングは竹内弘高理事長（13）。5－6歳のころ乗馬をしている写真から始まったご挨拶は、「いかにICUのPEが学生をサポートしてくれたか」の検証作業の様相を呈していた。在学中に経験されたスポーツは、野球、ゴルフ、サッカーにスキーと実に多彩。

そして、参加された方々の誰しもが「すごい！」と思ったに違いないのは、いまだに体力を維持され、「ゴルフは75歳になる2021年にエイジシュートを狙う」「ダボス会議に出た際、余興で開かれたスキーイベントの大回転に出場し33人中6位」「（お嬢様の）同級生相手にダブルスで一度も負けたことがないテニス」という輝かしい「実績」。

竹内理事長に続いてご登場されたのは、多くの学生に「伸さん」の愛称で親しまれてきたメインゲストの高橋伸先生。2021年3月にご退任の予定だが、実に45年にわたりICUにフルタイムで勤務されたことになる。

「ICUのPEの歴史」をテーマにお話いただいたが、まず「ICUのPEを作られた方々」として、PEのカリキュラムを作り上げた三隅達郎、高橋和敏、丹羽芳雄の3人の先生方をご紹介いた

だいた。初代の三隅先生のご専門は体育ではなかったそうだが、カナダのトロント大に留学され、日本にはなかった「organized camp」（組織キャンプ＝入念に準備し、明確な目的を設定したキャンプ）の考え方を持ち帰られた。ICUのPEのうち実技はレクリエーション色の濃いスポーツが多いが、そこには、「自分自身でやってみたらおもしろかった」と思えることを大切にする考えがある、とのこと。「上手な遊び方を経験し、身につける」とも。だからこそ、ICUのPEは「人間教育の一環」と位置づけられているのだ、と。

一例が、各自の身体の具合に応じた身体活動を行う「adapted PE」というプログラム。筋ジストロフィーの学生に、ストローに袋の先の部分をかぶせたものを吹いて飛ばしてもらったりしたそうだ。体力のない学生には「キャンプクラフト」というメニューが用意されていたが、これは飯盒でご飯を作ったりするもので、受講経験者からチャットに「とても楽しかった」とのコメントが寄せられていた。

ICUに赴任されるまでの生い立ちもご紹介いただいたが、驚いたのはご実家が大学のすぐそば（小金井市）だったこと。子供のころの遊び場は野川公園やICU牧場で、中学のマラソン大会のコースはICUの敷地を通過していたという。ICUに赴任されることが運命づけられていたようだ。

引率としてご活躍された野尻キャンや燕スキーキャンプも、たくさんの



写真とともに振り返っていただいた。ご自身もアメリカのサマーキャンプ（Camp O-AT-KA、東部メーン州）に参加し、組織キャンプのすばらしさを身を持ってご経験されている伸さんならではの、センスが感じられるプログラムであることが伝わってきた。

現在のPEは2017年にカリキュラムを改訂され、実技はすべて男女混合（ただし人数は男子3：女子7になってしまうとのこと）だそう。

後半のプログラムに入るまえに、部やサークルから寄せられた、活動を紹介する動画コンテストの結果発表と表彰式が執り行なわれた。コンテストには10団体から応募があり、「人気

最高すごいで賞」はテニス同好会のPAPOOSEが獲得。岩切正一郎学長から同窓会のアラムナイラウンジ3時間使用券とともに表彰を受けた。このほか「べすとしん先生賞」なども用意され、にぎやかな表彰式となった。

最後は、高橋伸先生を慕う仲間たちの思い出話で盛り上がったトークセッションで締めとなった。

ピークで111名のオンライン参加をいただいたイベントとなった。準備されたプロジェクトチームの皆様、大変お疲れ様でした。

ホームカミングの特設サイトは2021年3月までご覧いただけます。新たにコンテンツも追加されていきます。動画コンテスト、野尻キャンプのページはメインからも移動できます。

《ICU 同窓会の皆様へ》 三井住友トラスト VISA ゴールドカード 年会費を大幅割引！

VISA ゴールドカード

通常年会費11,000円(税込)

2,750円(税込)

2年目以降も同額！

ロードサービス VISA ゴールドカード

通常年会費12,100円(税込)

3,300円(税込)

※家族会員年会費は1,100円(税込)です。

まもなく入会キャンペーン終了！！

2021年4月30日まで

期間中にご入会された方全員に

1,000円キャッシュバック！

※本会員・家族会員同時にご入会の場合は、**2,000円**キャッシュバック

★ ご家族の方でも本会員申込みOK！

★ 同窓会にもメリット！！

カード利用額の一部が同窓会に還元！

★ ゴールドカードの主なお役立ちサービス

- *海外・国内旅行傷害保険
- *お買物安心保険
- *空港ラウンジサービス
- *ワールドプレゼント
- *ロードサービス（ロードサービスVISAゴールドカードのみ）

など

※ご入会にあたっては、弊社所定の審査がございます。

申込書請求先（MAILの方は、ICU 同窓会員であることに加え ①お名前 ②ご住所 ③お電話番号 をご送付ください。）
TEL 0120-370-070 MAIL Moushikomi@smtcard.jp ⇒⇒
（取得した個人情報は VISA カード入会申込書を送付する事に限定いたします。）



三井住友信託銀行グループ
三井住友トラスト・カード
お電話受付時間：平日 9:00～17:00（土・日・祝日・12/30～1/3 休）
営業推進部

学生部企画「文字版キャリア相談会」のご報告 ～キャリアについての、先輩たちの「本音」を読む～

文：同窓会学生部・松本典子（45 ID01）

同窓会学生部では、例年、大学との共催により、①「未来予想ZOO」、および②「キャリア相談会」という2つの企画を開催してきました。「未来予想ZOO」は、ICU卒業生ならではの様々な生き方に触れ、現役生が将来のことを考えるお手伝いをするイベントです。また、「キャリア相談会」は、業界や企業に関するPR色の強い就職フェア等とは異なり、現役生に様々な角度から仕事やキャリアを考えるきっかけを提供するイベントです。

この2つのイベントは対面型かつ大学のキャンパスを利用する形で行われてきましたので、残念ながら今年は開催を見送ることとなりました。

そこで、同窓会学生部では、本年度は「文字版キャリア相談会」と題した企画を行っています。

「文字版キャリア相談会」は、ウェブサイト上での、ブログ形式を利用したコンテンツ配信企画です。現時点では、(1) SNSメッセージのやり取り風コンテンツ、(2) 雑誌インタビュー記事風コンテンツ、(3) 一問一答型コンテンツの3種類のテーマで展開しています。

(1) SNSメッセージのやり取り風コンテンツは、現役生が卒業生に対して、就活にまつわる相談をして、卒業生が“本音で”回答する場面を再現・編集した、かなりリアルなやり取りです。例えば、次のようなやり取りが掲載されています。

学生「就活就職後に感じたギャップは何ですか？」

先輩「私が就職後に最初に感じたギャップは、内定者の集まりで、『出身高校』で盛り上がってグループができたことでした。あれは、衝撃だった。」(以下略)

(2) 雑誌インタビュー記事風コンテンツは、現役生が卒業生に対して、就

活にまつわる質問をして、卒業生が“本音で”回答をするインタビュー記事です。

(3) 一問一答型コンテンツは、現役生に対して、卒業生に聞いてみたい就活にまつわる質問を出してもらい、アンケート形式で卒業生に回答してもらったコンテンツです。例えば、次のような現役生からの質問に対する回答が掲載されています。

Q：「ICU生はすぐ辞める」と聞きますが、本当ですか？ それはいけないことでしょうか？ 理由は何だと思いますか？

Q：仕事をしていてICU卒であることが、プラスになったことは何ですか？ マイナスになったことはありますか？

Q：女性にとって結婚と出産はキャリアに影響するのでしょうか？ また、女性が働きやすい職場はどのように選べばよいのでしょうか？

現在は、(3) 一問一答型コンテンツが最も充実しており、週1回ペースで新しい記事の配信をしています。回答者は、現時点で男性8名女性8人の計16名で、IDは78(22期)から15(59期)まで、幅広い世代の卒業生が回答してくださっています。

現在閲覧登録をしている現役生は200名弱で、就職にまつわるテーマということもあり、登録者は3年生が中心です。ブログ形式のコンテンツのため、新たに登録した方もこれまでの全記事を閲覧できるようになっています。今後もテーマやコンテンツは増えていく予定です。

これらのコンテンツに共通しているキーワードは、いずれも卒業生の“本音”です。

これまで、同窓会学生部がリアル企画を開催してきた中で、学生部として取り組むべきテーマらしきものが見え

ー学生：

外資金融って定年まで働くイメージがなく、なのに他業種で役に立つスキルもついてないとなると、皆さんどうしているのですか？

ー同窓生：

まあ、他業種で役立つスキルはないけど、どこにいても這い上がるだけの馬力はつくかな(笑)？外資金融の同期の現在は、みんないろいろ苦労しているけど、まあ、自分で自分の人生を切り

ー学生：

なるほど、そういう捉え方もあるんですね。日系の面接でよく「君は出る杭のようだね」と言われたので、ポジティブに捉えられていないのだなと思うことがありました・・・、その点外資金融の方が自分としても過ごしやすいのかなと思っていました。

ー同窓生：

すごしやすい＝競争相手が多い。出る杭＝競争相手が少ない、という考え方もあります。出る杭は、出てる分ユニークなので、日本の会社で生き残れば、その会社がリストラや事業転換の必要が

キャリア相談：外資金融

プロフィール：

就活中の在学生

同窓生(80年代後半に新卒で外資金融に就職。マネジメントの経験もある)

先輩、就活についての質問です！就活就職後に感じたギャップは、なんですか？

私が就職後に最初に感じたギャップは、内定者の集まりで、「出身高校」で盛り上がってグループができたことでした。あれは、衝撃だった。

経験を共有することができるように、そしてそこから何らかのヒントが得られるように、企画を考えてきました。昨年までのリアルキャリア相談会では、学生部外から各業界の卒業生を招いて現役生からの相談に対応し、学生部所属の卒業生は裏方に徹してきましたが、今回の「文字版キャリア相談会」では学生部所属の卒業生がコンテンツを作成しています。そして、なんと回答者を含め、卒業生は基本的にコンテンツの閲覧をすることができません(笑)。これは、できる限り卒業生が“本音”を語ることができるようにするための仕組みです。今後も、さらに現役生のニーズに合致したコンテンツを充実させていきたいと考えています。

同窓会学生部では、「文字版キャリア相談会」の他にも、現役生と卒業生とのオンライン対話企画の開催も検討しています。また、リアル開催が可能になった際には、従来型のイベント開催についても検討する予定です。

また機会がありましたら、これらについてもご報告させて頂く予定です。どうぞよろしくお願い致します。



ICU 教会での結婚式のご予約・ご相談は株式会社 ICU サービスまで！

株式会社 ICU サービス

国際基督教大学 本部棟 2 階
TEL: 0422-33-3530 MAIL: info@icu-service.com



伝説の担担麺屋
トンスリン復活!!

2月吉日 OPEN

住所：東京都千代田区六番町 4-1 1 階
JR 市ヶ谷駅徒歩 3 分

4_People わたなべけい (渡邊香弥子 27 ID83)

各ジャンルで活躍の同窓生を紹介

美術作家わたなべけいさんはオーストラリアのブリスベンを拠点に世界各地で作品を発表したり、ワークショップで版画を教えている。わたなべさんが美術作家に転身したのは10年前にさかのぼる。語学科を卒業後、出版や報道の世界に入り、結婚前の10年間はロイター通信社の記者として活躍していた。ロイターの同僚フォトグラファーだったオーストラリア人の夫とともに息子を育てながら、ロンドン、ワシントンDC、シドニー、ブリスベンと居を移すなかでアートを仕事にする契機は何だったのか。そして、コロナ禍のなかでどんな作家活動をしていたのか。わたなべさんの「やりたいからやってみる」前向きなマインドに勇気づけられる人は多いだろう。

文：星川菜穂子（本誌）

もともとわたなべさんは小さい頃から絵を描いたり物を作ったりするのが好きだった。「小学校に入学する前の年のクリスマスに水彩画のセットをもらい、うれしかったのをよく覚えています。小学校では週に1回2コマ続きの図工の時間が待ち遠しくてたまりませんでした」。30代のあるとき、体調を崩したことがきっかけでアートにまた目が向くようになり、休日に趣味の銅版画講座などに通うようになった。その当時、わたなべさんはロイター東京支局の特派員。経済記事を海外の市場関係者やメディア向けに英語で書いていた。「企業や市場関係者、政治家や官公庁を取材して、ときには出張もありました。とても面白い仕事でしたし、上司や同僚にも恵まれていました」。

夫の赴任でロンドンへ引っ越すことになり、わたなべさんはロイターを退社する。これは人生のひと区切り、そう考えて心残りはなかったという。「ロンドンに行ったら美術にどっぷりとつかりたいとは思っていましたが、アートを仕事にしようとはまだ考

えていませんでした」。ロンドンで1年ほどは大学の講座に通ったり、版画工房のメンバーになるなど、美術への情熱は色あせなかったが、育児で忙しくなり制作はいったん休止する。

自分も驚いたプロになる宣言

その後、夫の赴任で移ったワシントンDCでも制作はできず、わたなべさんが再び版画に取り組めるようになるのは5年後、2005年にシドニーで暮らすようになってからだ。息子が小学生になり、ようやく育児がひと段落したため、シドニー郊外のコミュニティーアートセンターで週1回、3時間の講座に通い始めた。その講座の初日、わたなべさんは「将来プロになれると思います」と自己紹介する。「そう言ったあと、そんなことを考えていた自分に驚きました。それまで中断せざるをえなかった美術を一生懸命やろう、そのゴールとして仕事としてやれるようになろうと無意識に考えていたことが、思わず口から出たのではないかと思います」

シドニーのアートセンターの講座に3年間通ったのち、そのときの先生のすすめで職業訓練に重点を置く州立の学校、TAFE (Technical and Further Education) で版画の聴講生となった。TAFEに在籍して3年目、本屋に版画で作ったカードを売り込んだり、画廊の企画したグループ展で作品を展示して、徐々に作家デビューの足固めをする。翌年の2010年の暮れ、ブリスベンに引っ越したわたなべさんは「版画でどこまでやれるか試してみよう」と本格的に作家活動をスタートした。

よい仕事は世界に届く

当時をわたなべさんはこう振り返る。「そのとき50歳でしたが、年齢は自分では気になりませんでした。というのは、オーストラリアの大学やTAFEには社会人学生がとても多く、自分と同じような年齢で学んでいる人たちがたくさんいたからです。誰でもアーティストの看板を掲げられる環境なので、私もアーティストを名乗り、あと

は堂々とそう名乗り続けていられるように実績を積もうと思いました。ただ、周囲の20～30代のアーティスト仲間に比べれば時間的な余裕がないのは自覚していたので、てきばきと一生懸命、人より速く、丁寧に仕事をする心をかけて、展示の機会や講師の仕事を増やしていきました」。

かつて記者時代に肌身に感じていたことは作家活動の指針にもなった。「ロイターで世界に向けて情報を発信する仕事をしていたことから、よい仕事は世界のかなたまで届くことを実感していたので、アーティストに転身したときも、最初から国や地域にこだわらずに作品を発表しようと思っていました」。インターネットを駆使して幅広く情報収集し、イタリアやドイツのアートフェアに参加したり、ニューヨークのコンテストで受賞するなど、着実に活動の場を広げていった。

自然へのおそれと人間

作品のモチーフは主に植物、動物、天体など。自然の美しさやはかなさ、



わたなべけい「In the woods, thinking 1, 2 and 3」(木版画、それぞれ18×16cm、2020) (神戸眞平撮影)

ときに恐ろしさを描いてきた。「私は特定の宗教を信仰しているわけではありませんが、自然に対するおそれや、世の中には人間の思いの及ばないことがあるというのは長い間、漠然と感じてきました。それをはっきりと意識したのが2011年の東日本大震災。テレビで見る津波は、自分の国の国土とともに、生まれてからこれまで自分がよいと信じてきた経済のあり方、価値観を削りとり崩していくようでした。非常な無力感、虚しさを感じました。ちょうど作家活動を本格的に始めようしていた時期と重なっていたこともあり、その後、自然の大きな営みや人間の関わりをテーマにした作品を作ることにつながりました」。

わたなべさんに自作品をひとつ紹介してもらった。「In the woods, thinking 1, 2 and 3」はコロナ禍の東京で2020年に制作した3枚組の木版画だ。その背景には不意に訪れた父親との別れと、東京滞在をきっかけとしたわたなべさんのアーティスト的内省や新たな挑戦があった。

公園でルーツに向き合う

3月半ば、父が入院し、オーストラリアから急いで帰国したわたなべさん。新型コロナウイルスで倒れたわけではなかったが、コロナの混乱のなか当初は面会を許されず、10日後にお見舞いできたものの、3日後に亡くなられた。もともと住んでいた実家の団地が解体されることになり、そこに残して

いた荷物の整理もあって、そのまま東京に残り、高齢の母と弟をサポートすることにした。

そこでわたなべさんは悲しみに暮れたり、コロナ禍で先行きの見えない状況を嘆くばかりでなく、東京で自主的に「アーティスト・イン・レジデンス」を試みる。普段自分が拠点としていない場所に滞在して創作するという美術界のひとつの手法だ。アートを仕事にして10年、自身が還暦を迎える年であることから、これまでの活動を

見直して、作家として次のステージを模索しようとちょうど考えていた時期でもあった。

新しい実家はもとの実家と同じエリアで、近くにはわたなべさんが子供時代によく遊んだ緑豊かな都立公園がある。「毎週2、3回は公園に行って、池の周りや木々の間を歩きまわったり、ぼーっと座っていたり、お茶を飲んだり、スケッチしたり、本を読んだり、季節ごとの花や虫を楽しんだり、亀が池から顔をのぞかせるのを見たり、

鳥の声を聞いたり、亡くなった父や、日々衰える母のことを考えたり、壊れてしまう実家のあった団地のことなど、あれこれ考えているうちにできた作品です」

2020年12月現在も東京にいるわたなべさんは今後の活動にも意欲的だ。コロナが収束したら、ブリスベンで東京滞在中の作品や記録をまとめた個展を開くこと、リモートのオンライン講座を推し進めること、その視線はいつも前を向いている。



ブリスベンで所属するインプレス版画工房で作品制作をするわたなべさん（ジョン・ブライク撮影）

WATANABE, Kay

オーストラリア・ブリスベン在住（2020年はコロナのため、年の大半を東京で過ごす）。ICU卒業後、通信社勤務などを経て、美術作家に転身。版画を中心に、絵画、オブジェなどの制作を行い、オーストラリア、日本をはじめとする世界各地で作品を発表。New York International Miniature Print 賞（2017）など受賞歴多数。版画の講師も務める。
<https://printmaking8.wixsite.com/kaywatanabe>
<https://www.facebook.com/KayWatanabePrintmaker>
https://www.instagram.com/kayw_artist/

Think globally, act locally.

“ここ”から始まるストーリー



東京・三鷹市にあるICU。そこから数多くの卒業生たちがさまざまな場所へ旅立っていった。
ICUの「I=International」を意識せずとも胸に刻み込んで過ごした大学時代を経て、今、卒業生はどのように生きているのか。
この企画では、国内の“ある場所”で活躍する仲間スポットを当て、その地で活動を始めた経緯やその地の魅力を聞いた。
そこから見えてくる、“地域にこだわり、地域にとらわれない”生き方とは――？

和歌山の病院で臨床心理士として20年以上勤務 ICUの経験、土台に

和歌山県 ひだか病院 心理士・石橋玄氏 (37 ID93/G1995)

文：滝沢貴大（本誌） 写真：本人提供

ICUで「土台」を学び、 心理学を仕事に

ID93の石橋玄さんは、和歌山県御坊市、人口3万人弱の県中部の中核都市で、20年以上にわたって心理士として働いている。勤務先は、周辺の1市5町が設立母体の総合病院「ひだか病院」。日々、心の問題を抱えた患者たちと向き合い、いやしている。

もともと御坊市出身。ICUを受験したのは、心理学を学べる大学を選んでいた過程でのことだった。「当時、自分のことを『めっちゃ普通なやつ』とっていて、それが嫌だった。『自分独自の何か』みたいなものに憧れていて、周りは法学部や経済学部に進む人が多いなかで、そうではない勉強がしたいと色々調べていたら心理学と出会った」。教育学科に進学し、教育心理学を専攻。原一雄名誉教授に師事した。課外活動ではワンダーフォーゲル部に打ち込んだ。卒業後は、ICUの大学院にも進学し、修了した。こちらでは発達心理学を専攻した。「直接いまの仕事に結び付く内容というわけではないが、土台としての心理学を学べたと思う」と石橋さんは振り返る。大学院卒

業後は、東京の出版社に就職。しかし、水が合わず、1年と経たず退職。その後就職したのが、現在のひだか病院だった。

実は、院生時代に見学や実習で来たことがあった。元々石橋さんの母が同病院の看護師として働いていて、幼いころから病院には何度も訪れていた。病院での心理士の仕事を見学させてもらう場所を探していた時に、ひだか病院で当時働いていた臨床心理士に引き受けてもらい、2週間見学させてもらった。そのときの臨床心理士が退職したこともあり、代わりに働かないかと白羽の矢が立った。「声がかかって『やります』とは言ったが、不安はあった。働き始めて、患者さんとの話し方などは院で臨床心理学の授業を受けていたので知識としては知っていたが、実際どうするのかは全然わからなかった」。当時、同病院には他に心理士として働く人はおらず、試行錯誤の毎日。勉強を重ね、学生時代の知り合いも時に頼りながら仕事に慣れていった。働きながら、臨床心理士や公認心理師の資格を取得した。

日々の仕事としては、精神科を中心
に、薬だけでは解決できない心の問題

を抱えた患者らに対して、カウンセリングなど心理的なケアをしている。自殺を試みて担ぎ込まれた鬱病の人、がんと闘病中の人。「たとえば、患者さんのトラウマとなっている出来事を聞いていると、自分も腹が立ってきたりする。自分の体をちゃんとしておかないと、と気を付けている」。

地方だからこそ

特に、地方だからこそ事情もある。「たとえば地区によって貧富の差があり、貧しい人が多い地域は相対的に患者さんも多かったりする。地元で働いているからこそ、町の歴史的背景もわかる。それは心理士として働いていてプラスになっている」と話す。都会と比べ、田舎はどうしても心理士として働く人も少ない。「自分が診るような患者さんでは、薬でどうにかなるケースもあるが、それでは症状が起きた背景、たとえば幼い頃のトラウマなどを解きほぐすことは難しい。心理学的な視点で患者を診ることができる人が地域にいるのは大事」と話す。

このほか、病院の仕事がない日には、地元の引きこもり支援のNPOで理事として活動している。心理士としての

知見を生かし、みんなで楽しめるゲームをしたり、ワンダーフォーゲル部での経験を生かし、引きこもり経験がある人たちと小さな山に登ったり。地域に寄り添った仕事や活動。その中で、ICUで学んだ視点が生きていると感じることがある。「ICU時代、日本各地や世界から来た人たちとキャンパスで話した。そこで、『伝えようと思えば、なんとかなる』感覚がしみこんだと感じる。患者さんと話すときは、どこまで踏み込んでいくかなど悩むことも多く、失敗することもしばしばあるが、でもそこで一歩を踏み出すときにICUでの経験が土台になっていると感じます」。

日々のやりがいは「こんなに良くなったよ」「しんどくてできなかったことができるようになったよ」などと声をかけられることと石橋さん。これからも、地元で働き続けるつもりだ。「心理士の仕事は、東京でもパリでも御坊でも、内容は一緒です。でも、だったら、心理士の数が少なく、多くの人とつながりがある御坊でやった方がええんちゃうかと、地元の寂れた商店街を歩きながら思ったんです。今後とも、ここらへんでやっていきます」。

お邪魔します！ あのメジャー

全31の中から気になるメジャーを紹介

今回は、学際メジャーの中から開発研究を取り上げます。
これまでの研究を批判的に捉える視点が登場し、よりダイナミックな分野になっているという同メジャー。
教育学的なアプローチが専門の西村幹子教授から、お話をうかがった。

文：滝沢貴大（本誌） 写真：本人提供

社会におけるよりよい変化とは何かを社会科学する学問

開発研究メジャーは学際的で広い学問分野ですが、一言で言えば「よりよい社会とは何か」、あるいは「社会におけるよりよい変化とは何か」を追究するものだと思います。そして、それには色々な分野から切り込むことができます。

ICUでは3つの分野を軸にアプローチしています。1つめは政治学・国際関係学。よりよい社会を作るため、どういう国際的な政策や政治システムがどのように機能するのか、などを学びます。2つめは教育学。開発における教育の役割を学んだり、国際的な教育協力がどう行われているか、実際のプロジェクトを評価したりします。3つめは経済学。開発研究のなかでずっとメインストリームをしめてきたのは経済学的な観点でした。「国家が経済成長すれば、人びとの生計は向上するのか」といったことや、貧困の動態などについて経済学的手法で考えます。

また、私は現在サービスラーニングセンター長も務めていますが、昨年からサービスラーニングの実習のコースを開発研究メジャーの単位にもカウントできることになりました。「社会におけるよりよい変化ってなんだろう」と考える時に、実社会での経験を通して身をもって知るのは大切だと考えたからです。自分が思い描いていた「よりよい変化」が、相手の立場から見たら違うこともある。変化を判断する基準は多様なのだと身を持って知ってもらいたい。それによって、自分は社会とどう関わっていくか、何を変化と捉えて、それとどう関わるかを描ける人になってほしいと願いを込めました。

開発は途上国でない国が主要な役割を担っている

私の担当する授業では、教育学からアプローチします。この分野では、一言で言うと「社会における変化に、教育がどう関係しているのか」ということを扱います。伝統的には、途上国における社会の変化と教育の普及の関係などを扱ってきましたが、最近は変革期にあります。

今まで開発は貧しい国の話だと思われてきました。でも、環境破壊や紛争など、先進国が主要な役割を担っている問題がたくさんありますよね。西洋近代社会における社会のあり方がデフ



ォルトで、そこが問われることがなかったのを見直すべきだという観点が近年入ってきました。そうすると、先進国も途上国も関係なく、社会全般において教育がどういう役割を果たすか根本的に問い直されるようになりました。

最近の視点としては、「教育を受けても生活が向上しないという状況があるとするならば、教育の現場は本当に公正なのか」「教育は本当に全ての人を取りこぼさず、居場所を提供できているのか」など。日本でも、不登校や外国にルーツをもつ子どもを取り巻く問題がありますよね。そういうことにも目を向けよう、教育のあり方自体をより批判的に捉えようという視点と、社会におけるよりよい変化とは一体何なのか、根本的に問い直す視点が入ってきました。ダイナミックな学問分野になっていると思います。

ICUで開発研究に取り組む意味

開発研究は応用科学。学部で開発研究を学べる大学って世界を見てもあまりありません。通常は大学院から学ぶ分野です。ですので、ICUで学べるのは入り口ですが、その視点を学ぶことができますと思います。

開発研究は、一つの学際的な視点を提供する学問、世界の複雑性がこんな風に多角的に見えますよ、ということを提供する学問だと思います。開発研究メジャーの授業を全部取れば完結するものではないです。そういう点では、ICUはリベラルアーツなので、たとえば「内部者の見え方と外部者の見え方ってこう違うんだ。じゃあ人類学メジャーの授業を受けてみよう」、「宗教と紛争の関連で、もっと宗教のことを知りたい。哲学・宗教学メジャーの授業を受けてみよう」とか、異なる専門分野の物も併せて取っていくことで、より自分の焦点、興味を理解し、深めることができますと思います。

学生に期待していることや、今後の展望

開発学をやろうと思う人の中には「貧しい人を助けたい」とか「先進国と途上国の不平等について深く考えたい」といった目的意識を持つ人が多いのですが、裏を返すと、自分自身の貧困や不平等のとらえ方にあまり批判の目を向けていない人も多い。それは当然だと思うし、私も昔そうでした。

そこから脱却して、「自分の貧困のとらえ方は本当にこれであっているか

第21回 開発研究 西村幹子教授

NISHIMURA, Mikiko

2005年、コロンビア大学ティーチャーズカレッジ博士課程修了。11年からICU准教授を務め、18年から教授。JICAで3年、国際開発コンサルタントとして2年半の実務経験があり、授業ではそうした経験も交えて話す。2月、岩波ジュニア新書から『SDGs時代の国際協力——アジアで共に学校をつくる』を共著で出版

な」と批判的な目を向けてもらいたい。自分の社会における立ち位置はどういうところであって、目の前の権力構造がどういう風に成り立っていて、そこに自分はどういう風に関与しているかについて自覚的になった上で社会に入っていくか、慈善活動も「百害あって一利なし」になりかねない。サービスする側、される側に分かれるのではなくて、一緒に同じ方向を向いて社会を変えていくとはどういうことか、もう少し自覚的に、批判的に、考えるきっかけを与えられるメジャーでありたいです。

私たちの生きる社会には色々なところに不均衡、不平等がある。もう少し具体的なデータを用いた実証研究を通して、何をしたらいいかということが深まっていく必要があります。そして、いろんな分野の先生が協力して、ひとつのプロジェクトをすべきだと思います。たとえば社会実験が倫理的な問題をはらむことはあるし、実験の後には、色々な心理的な現象も起こります。あとは、現状欧米の研究者が多いので、途上国の人と一緒に研究するような、いろんな人が参加するような研究が進むと、もっと新しい視点が出てくると考えています。

From the University

大学のページ

当ページでは、前号よりICU歴史資料室が連載を担当しています。

皆さまが在学されていた当時の歴史やこれまで知らなかったICUについて知る機会にもなるかと存じますので、ぜひご一読ください。

文・松山龍彦（ICUアーカイブス）

われわれは何の上に立っていたか

いきなりですが、問題です。

「淡雪・白鷹・蛇紋・カナリヤ・溪流・美濃霞・鳴戸・遠眼鏡・山口更紗… これらはあるものの種類を表す言葉ですが、いったい何の種類でしょうか？」

「和風の名前だから… 和紙？ 布地？」

「ブー。ヒントその1：ICUに通っている人が毎日のように目にするものです。」

「樹木の種類？ 梅や桜の品種？」

「ブー。ヒントその2：あなたは、何の上に立っていますか？」

「何の上に？ 芝生… レンガ？」

「惜しい。答えはテラゾーです。」

「寺蔵？？？」

いいえ、テラゾー (terrazzo) です。テラゾーは建物の壁や床に使われる建材 (表面加工) の一種です。(※1) 本館に入ったら足元を見てください。廊下や教室の床は小石の粒が入った混ざった大理石風の仕様ですね。それがテラゾーです。テラゾーは砕いた大理石の粒を色付きセメントに混ぜ込んだもので、セメントの色と粒石の色の組み合わせで様々な表情が出せます。文頭の名前はそれらに使われる石の種類なのです。かつては学校・ホテル・公的機関などの建物に多用されていました。見た目の美しさとすぐれた耐久性を持つため今でも小学校の流し場、駅の階段や高級小売店、バー、注文住宅などで使われます。ICUでも本館・図書館・D館・シーベリー礼拝堂・教育研究棟・本部棟などに使われています。ICU生は一日のうちの多くの時間をテラゾーの上で過ごしてきたことになります。今回はこの技術的にも特殊で興味深いテラゾーについて少し詳しく調べてみました。大学の歴史というよりは大学の床の歴史ですね。

ICUの床の歴史

20世紀の初め頃、イタリアの建築家と内装職人の着想で住宅のテラスに大理石の碎石とセメント類を混ぜて塗装したものを磨きだすと、非常に簡単に美しい仕上げができた。これをテラツォ (terrazzo) と名付けたという伝聞があります。日本ではテラゾーま

たはテラゾと呼ばれているこの仕上げを定義すると、「大理石、花崗岩、陶磁器などの碎片を骨材として用い、混和粘着剤としては各種セメントおよびセメント混和顔料を配合して練り合わせ、塗り付け、硬化してのち研磨によりつや出した材片および施工面」となります。

テラゾーの施工についてもっと詳しく知りたいと思い、ウェブページでテラゾーの施工について紹介をしている中屋敷左官工業株式会社に連絡を取り、図書館内のテラゾー仕様部分の写真を送りしたところ、ぜひ見学したいとの返信がありました。去る12月15日に中屋敷剛代表取締役以下、左官業界の代表者4名が見学のために来学されました。図書館本館、大学本館、シーベリー記念礼拝堂、ディッフェンドルファー記念館 (東館) を筆者がご案内したのですが、施工に携わる方でないと気が付かない技術的な部分について知ることのできる貴重な機会になりました。この場を借りて改めてお礼申し上げます。教えていただいた様々な情報を含めて、以下書き進めていきます。

テラゾーの特徴

テラゾーの建材としての利点はいろいろありますが、まず、大理石に比して値段が圧倒的に安い。砕いた粒石でいいのですから当然ですね。次に、テラゾーであれば大理石ではできない自由な形や大きさのものを作ることができる。半人造でありながら大理石の持つ美しい雰囲気のある程度演出できるという点も大きいでしょう。日本におけるもっとも初期のテラゾー施工は日本橋の三井本館と伝わっていますが、写真集で確認した限りではテラゾーが使用されているのは一部の限られた場所だけで、大部分は天然大理石が利用されているようです。写真 (※2) はICUの大学本館です。本館には床、腰壁、階段と手すりにテラゾーが使われています。この建物はもともと1940年代に中島飛行機が建てたものを引き継いでいるのですが、ICUが開学するにあたって相当の部分が改装・増築されており、これらのテラゾーも当時ICUの主任建築家だったメルル・ヴォ

ーリズの指示によるものと思われます。階段手すりの部分 (※3) や廊下と壁の接合部分などのカーブに彼らしさを見ることができます。廊下の腰板はてっきり他所で作ったテラゾーブロックを張ったものと思っていましたが、コテで塗り付けたあと手作業で研磨していることをお教えいただきました。確かによく見ると表面が微妙に湾曲しているのが確認できました。また、壁と床の接合部分の黒いテラゾーは曲線部分を手作業し、その上部はブロックを使った二段階施工であることも分かりました。

キャンパスに見られるテラゾー

本館以外で見られるテラゾーの中で特徴的なのは、シーベリー記念礼拝堂と、やはりヴォーリズの手掛けたディッフェンドルファー記念館 (東館)。そして彼の後任の主任建築家、アントニン・レーモンドによる図書館本館でしょう。ディッフェンドルファー記念館1階フォイヤーの床 (※4) には天然大理石の板がはめ込まれており、鑑賞に堪えうる美しい仕様です。これは大小さまざまなサイズや形の大理石板をパズルのようにはめ込んだもので、バルコニーや庭の歩道などにも使われる乱材と呼ばれる手法です。室内床の場合は多数の不規則な石材を水平に磨き出すため、高度な技術が必要だったと思われます。石材は国産ではなくイタリアなど海外から調達されたものとことです。大きな黒い石のように見えるところも、よく見ると細かい石がいくつも敷き詰められた部分があたり、石の形をわざと複雑にしたり、石材の辺を波のようにジグザグに加工するなど、知っている人に指摘されないことと分からない職人の遊び心とこだわりがあることがわかりました。このセンスはもう芸術品と呼んでいいのかもしれない。

一般的なテラゾーはセメントに粒石を混ぜたペースト状のものを金属製の枠の中に流し込んで作られます。現場で作業するため、これは現場テラゾーと呼ばれます。施工箇所によっては、あらかじめ工場で必要サイズの板に成型加工したテラゾーブロックを運び入

れて組み込みます。図書館本館の階段室の手すりはくりぬいた溝型のテラゾーブロックをはめ込んでいますが、この造形は技術的に高度なもので周りの部分とのすり合わせも大変とのことでした (※5)。また、もうひとつの階段室の手すりは屋上階から地階まで切れ目がありません。現場作業において、木型に流し込むか塗り付けたあと研磨することで目地 (継ぎ目) のない一体化を実現したようです。

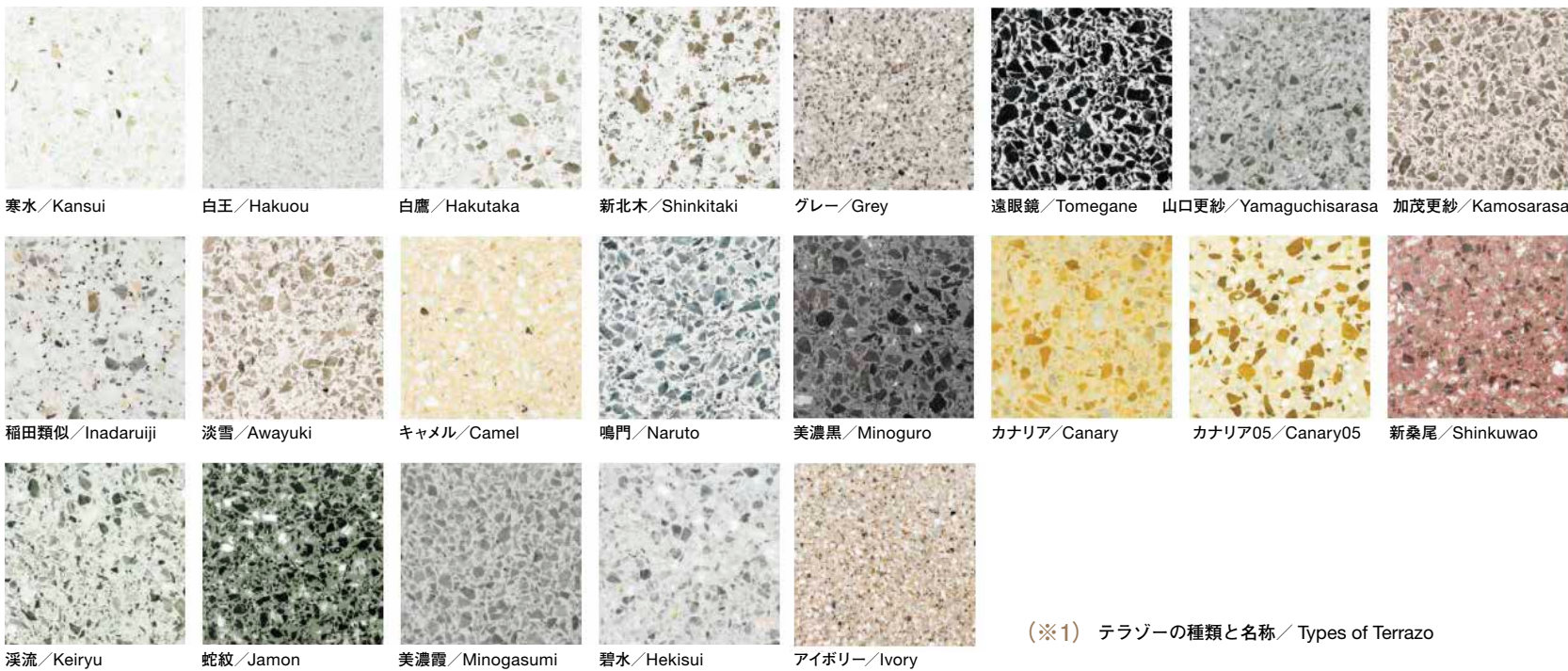
話がそれますが図書館のテラゾー床 (※6) の模様は菱形のパターンになっています。正面玄関前、オスマー館との間のコンクリートたたきの目地も菱形です。実は図書館の床の下、見えない部分には重さを支えるための梁 (はり) が網の目のようにめぐらされていますが、その形が菱形なのです。これは書架の重さを支えるために使われた工法で、斜めに配置することで床にかかる荷重をより効率的に柱部分に伝えることが可能になっています。床と梁を同じ模様にする必要はありませんが、レーモンドは自分が採用した菱形のフレーミングをこのテラゾー床で表現したかったのだと思います。

先日埼玉県新座にある立教新座中学校・高等学校にお邪魔する機会がありました。正門正面に建つ聖パウロ礼拝堂 (※7) はICU図書館と同じアントニン・レーモンドの設計による名建築です。ICU図書館の竣工は1960年、聖パウロ礼拝堂は1963年と近い時期に建てられましたが、礼拝堂入口のたたきの目地がやはり菱形なのです。建物同士は全く異なるデザインなのに、足元に同じ設計者の意匠を発見しました。

参考資料
『大理石・テラゾ五十年の歩み』(全国石材工業会、1965年)／樺島榮一郎『ある土地の物語』(北樹出版、2019年)／テラゾーサンプル画像：株式会社 野呂工業ウェブサイト／図書館本館建築図面：ICU管理部

前号の表紙について

前号表紙およびp.20掲載の図は、中島飛行機から土地を取得して間もないころの初期ファイルに含まれていた図面の一つで、主に明治時代の測量に基づいていると思われます。比較的細かい土地割りは住居または特定の目的のために使われていたと思いますが、1940年代までさかのぼってもその痕跡は認められません。

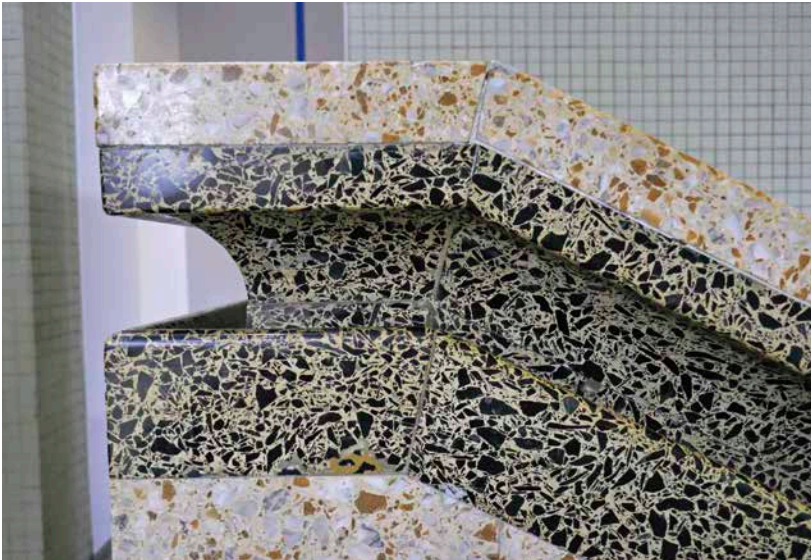


(※3) 階段の手すり（大学本館）／
Handrail (The University Hall)

(※2) 廊下（大学本館）／Hallway (The University Hall)



(※4) 1階フォイヤー床（ディッフェンドルファー記念館東館）／
1st Floor Foyer (Diffendorfer Memorial Hall)



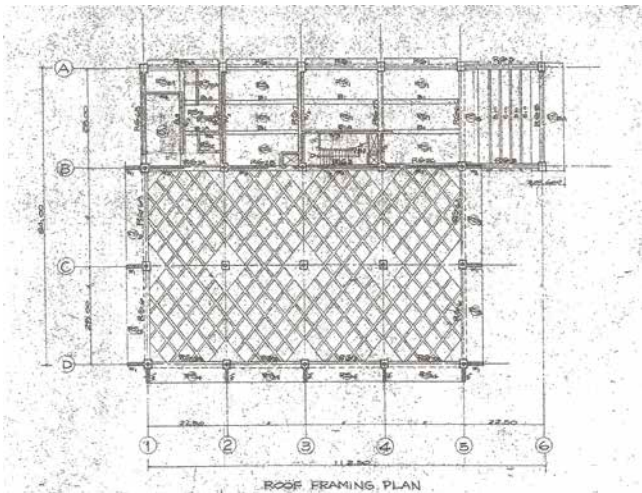
(※5) 階段の手すり（図書館本館）／Handrail (The Main Library)



(※6) 上：エントランス床（図書館本館）／
Entrance Floor (The Main Library)
下：梁配置図面（図書館本館）／
Floor Beam Layout (The Main Library)



(※7) 聖パウロ礼拝堂（立教新座中学校・高等学校）／
St. Paul's Chapel (Rikkyo Junior and Senior High Schools, Niiza)



From the University

ICU Archives provides a series of articles for this section from the last issue. We hope these stories will give you an opportunity to learn about the history of ICU, looking back on those times when you studied here and discovering facts which you were not aware of till now.

Text: Tatsuhiko Matsuyama (ICU Archives)

“On what were we standing?”

Here is a question.

“Snowflakes, White hawk, Snake skin, Canary, Mountain stream, Misty-Mino, Whirlpools, Telescope, Yamaguchi-calico… What do you think these names represent?”

“They sound like traditional Japanese names. They could be the types of Japanese paper or the patterns of fabric.”

“Wrong. Here’s clue no.1: Something that anyone coming to ICU would be seeing every day.”

“Then, the types of trees. Types of the plum or the cherry trees?”

“Wrong. Next clue: On what are you standing?”

“What I am standing on? Grass? Bricks?”

“Pretty close. The answer is TERRAZZO.”

“…Only Italians can tell what it is, I think.”

Italian, yes. Actually the term is used world-wide. Terrazzo is a type of building material used for the finishing of the surface of floors and walls. (※1) Look at the floor when you enter the University Hall. The floors of corridors and class rooms have marble-like finish with grains of pebbles mixed in. That is terrazzo. It is a material with crushed marble grains mixed in colored cement, creating various patterns depending on their combinations. Those are the names of the types of stones used for terrazzo. In Japan, terrazzo was once widely used in schools, hotels, and public buildings. Given its elegant appearance and durability, it is still used today in primary school sculleries, staircases in railway stations, luxury retailers, bars, and custom-built houses. At ICU, terrazzo is used in the University Hall, Main Library, Diffendorfer Memorial Hall, Seabury Memorial Chapel, Education and Research Building, and Administration Building, and in some other places. So that ICU students spend a significant part of their time on top of terrazzo. For this issue, I had a detailed look at this material, which is technologically unique and interesting. This is a story of the history of the floor of the ICU buildings, rather than that of the university itself.

History of floors of buildings in ICU

At the beginning of the 20th century, an Italian architect and an interior finisher had an idea to coat the terrace of a house with cement and crushed marble, which, when pol-

ished, gave a beautiful finish quite easily. And, as per hearsay, they named it terrazzo. According to a Japanese definition, terrazzo is “a building material and its finished surface, which is made by mixing an aggregate—fragments of marble, granite, ceramics, etc.—with various cement and cement mixture pigments to create adhesive compound, coating a building surface with it, and then polishing its surface after hardening.”

I wanted to learn more about terrazzo construction and contacted Nakayashiki Plastering Co., Ltd., a company which demonstrates its terrazzo applications on its website. I sent them the pictures of the terrazzo works in the library building, to which I had an immediate reply that they would definitely like to see them. On December 15, Mr. Tsuyoshi Nakayashiki, Representative Director of the company, and four representatives from the plastering industry visited ICU. I gave them a tour of the university, including the Main Library, University Hall, Seabury Memorial Chapel, and Diffendorfer Memorial Hall East Wing, and it turned out to be a valuable opportunity to learn about its technological aspects that otherwise would not be noticed by someone who is not engaged in construction. I would like to take this opportunity to express my gratitude once again. I will explain terrazzo further below by including the various information I gained from the specialists.

Characteristics of terrazzo

There are many advantages that terrazzo has as a building material, but first of all it is the price, which is decidedly cheaper compared to marble. Quite natural, as it only requires crushed grains of marbles. Next, with terrazzo you can make any shape of any size freely, which is not possible with marble. Another major factor is that it can reproduce a certain beauty of marble despite it being half man-made. The earliest terrazzo construction in Japan is said to be for the Mitsui Main Building in Nihonbashi, Tokyo, although I could confirm from the pictures of the building, terrazzo is apparently used only in limited areas with natural marble being used in the majority of the portions. The pictures (※2) here show the University Hall of ICU. Terrazzo is used for the floor, the lower part of the walls, and the

staircase and handrail. This building was constructed by the Nakajima Aircraft Company in 1940’s and was inherited by ICU. Major renovations and extensions were carried out upon opening ICU, and these terrazzo works are also believed to have been done under the instructions of Mr. Merrell Vories, the chief architect of ICU at that time. We can see his stamp on the curves of the staircase handrail (※3) and the cove joint where the corridor floor and wall meet. I had assumed that terrazzo on the walls were prefabricated blocks made elsewhere, but the specialists told me that it was plastered with a trowel and polished manually on site. Sure enough, when I looked closely, I was able to confirm slight curvature on the surface. I also found out that the black terrazzo in the area where the wall meets the floor was done in a two-level construction, curved portion jointed manually with blocks added on top.

Terrazzo around the campus

Among the terrazzo works observed in buildings other than the University Hall, those in the Diffendorfer Memorial Hall East Wing, which was built by Mr. Vories, and the Seabury Memorial Chapel, are most distinctive. Then, of course, we have the Main Library, which was built by Mr. Antonin Raymond, the chief architect who succeeded Mr. Vories. The floor of the Diffendorfer Memorial Hall’s foyer (※4) is inlaid with natural marble slabs, giving it a beautiful finish worthy of appreciation. This is a technique called crazy paving commonly used in balconies or garden paths, where marble slabs of various sizes are placed like a jigsaw puzzle. In the case of indoor flooring, polishing and leveling many irregular slabs must have called for a high level of technical capability. The stones were not domestic, but procured from Italy and other countries. We also found that the areas that appear as if a single big black stone is fitted in were, on close inspection, inset with many small stones, stones with complex shapes were deliberately chosen, or the edges of the stones were made into a zigzag shape. These revealed the craftsman’s imaginativeness and taste, which you would not have realized unless pointed out by someone who knows about it. We could in all respects call this a work of art.

Typically, terrazzo is made by mixing in crushed stones into cement, and

pouring the mixture in paste form into a metal frame. This is called poured-in-place terrazzo as the terrazzo is made on site. Depending on the construction place, terrazzo blocks prefabricated to required sizes in a plant are brought in for construction. The handrail in the stairwell of the Main Library building is made of hollowed-out channel-type terrazzo blocks. This shaping requires a high level of technical skill and its fit with the adjoining parts is also exceptionally delicate, as per the visitors. (※5) Further, the handrail in the other stairwell appears to have no joints from the top floor to the basement. Apparently, the mixture was poured into a wooden mold or plastered on site and then polished to achieve uniform finish without any trace of joint.

Going off-track a bit. The terrazzo floor of the Library (※6) has a diamond pattern. You might also notice that the front approach to the entrance of the Main Library, and the outdoor concrete floor between the Main Library and the Othmer Library also have diamond patterns. In fact, under the library floor, where you cannot see, there are girders to support the weight, laid out in diamond-shaped mesh form. This was a method used to support the weight of the bookshelves and the diagonal placement enables the load on the floor to be dispersed effectively to the pillar. There is no need to apply the same patterns to the floor and the girders, but Mr. Raymond probably wanted to express the diamond-shaped framing that he adopted under the terrazzo floor.

The other day, I had an opportunity to visit Rikkyo Niiza High School in Niiza, Saitama. St. Paul’s Chapel (※7) at the front entrance of the school is a famous building designed by Mr. Raymond who had designed the ICU Library. The ICU Library was completed in 1960, and St. Paul’s Chapel was completed around the same period in 1963. The pattern of the chapel entrance path is also diamond-shaped. While the building designs are entirely different, I discovered the same signature of Mr. Raymond on both sites.

Reference materials:

Dairiseki, terrazzo gojunen no ayumi (Fifty years of marble and terrazzo) (The Building Stone Association of Japan, 1965)

Aru tochi no monogatari (The story of a land) by Eiichiro Kabashima (Hokuju Shuppan, 2019)

Terrazzo sample pictures: Nomura-Kogyo Corporation website
Architectural drawing of the Main Library: Facilities Management Division, ICU

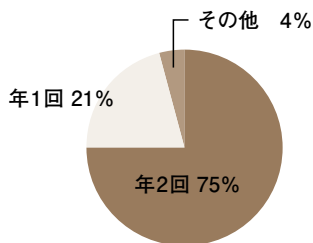
Alumni News Questionnaire

アラムナイニュースアンケート結果ご報告

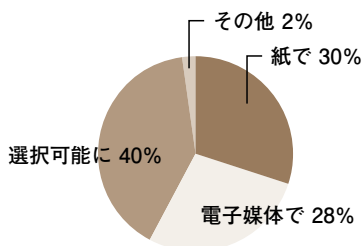
同窓会報アラムナイニュース（AN）は今号で134回めの発行となります。これまで版のサイズの変更などを経て、現在は年2回、印刷物としての発行が定着しています。一方で、携帯電話やインターネットが生活に深く浸透していく中で、新聞全般は発行部数の減少が続いています。雑誌なども含めた出版物も傾向は同じです。そうした環境変化の中で同窓会広報部では、ANがどのように読まれているのか、発行の形態はいまの紙媒体だけでよいのかなどを検討するため、2020年9月にアンケート調査を行いました。その結果をご報告します。

文：新村敏雄（本誌）

希望発行回数は？



希望発行形態は？



1 発行回数と形態

回数は「2回で良い」が 200/305（日本語）、4/8（英語）を占めました。形態は「どちらかを選択できるように」が日本語で107人、英語で3人でした。

紙、電子媒体それぞれの好みあり

「紙」を希望される理由としては「紙の方がゆっくり読めるので、このまま紙媒体を希望」「紙のメディアで育った者には、電子本は紙の本のように読み進められません。いましばらく、紙版のANも続けていって頂けると助かります」とのご希望のほか、なかには「毎回表紙が素敵で部屋に貼ることもあるので紙媒体継続をお願いしたい」と思いがけず嬉しいご指摘もいただきました。「紙ではなくデジタルの方が経費削減にはなると思うが、自分は紙が届くのでそのまま捨てるのも忍びないし読んでいる。・・・これだけの内容のものをデジタルで読むのはちょっと大変かもしれない」と揺れる思いを綴られた方もいらっしゃいました。また、「私自身は、ネット上のHPやメルマガだけの発信でいいと思う。しかし、インターネットを使っていない人がいると思われるので、その人たちに向けての発信は、紙媒体での発信しかないかと思う」

と各人の事情を配慮すべきとのご意見もありました。

一方電子媒体をご希望の方は「なかなか時間が取れないので、1回のボリュームを減らすか、web媒体に変更するとありがたい」「ざっと見て捨ててしまうので紙でなく電子媒体が良い」「紙媒体は好きなので続けてほしいが、海外渡航などで住居の変わる同窓生が多いと思うので、電子媒体も選択できたら」「紙面大きすぎ、紙は固くて扱いづらい、文字小さすぎで読みづらい。バックナンバーだけでなく、web記事にしてほしい」といったご意見がありました。ちなみに、活字のサイズは131号から大きくしています。

判型やデザイン

現在のANは新聞のスタイルでレイアウトしたタブロイド判ですが、「持ち歩いて読みたいが大きい」「A4にして」というご意見がありました。新聞を意識していることから、カラー刷りで写真も多用していますが、この点についても、「同窓会報というよりもICUのプロモーション誌のよう」「贅沢なつくり。もっと質素に」「立派な紙できれいな印刷なので、いくらかってるんだろう…寄付を募る前に削れるところはないんだろうか…」と誤ってしまいます。「紙面が大きいと迫力を感じることもあるが、ちょっと持って出て、電車で読むとか出先で広げるとかはしにくい」との声がありました。一方で「毎回ビジュアルにも優れたクオリティの高い会報誌」「電子媒体は情報が埋もれてしまう傾向にあるので現行形態を続けて」「紙面の大きいのは新聞としてはよいのですが、保存には難しいと感じます。他の新聞のように捨てたくないなのでご一考を」と今のスタイルを評価する声も寄せら

れました。

記事の分量

広報部内で「大特集」と呼ぶ毎号のメインの記事は、構成が2本建てになるなどしますが、だいたい4ページ前後になります。そのほかの大きな記事は1～2ページにおさめます。こうした構成については「若者には少し文字が多いかも」「もう少し短いほうが読みやすい」「長文インタビューは続けて読むと疲れる」と「スリム化」を希望されるご意見が複数ありました。

2 取り上げるテーマ

記事の内容については、「同窓会報としてふさわしい内容になっているか」とのお尋ねに対しては約9割の回答者から「そう思う」とお答えをいただきました。一方、「取り上げてほしいテーマ」については、当然ながら読者の皆様の関心の対象が多岐にわたるため、さまざまでした。

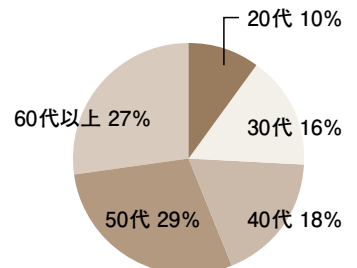
その中で複数の回答があった「読みたい」「チャレンジしてほしい」題材として、いくつかを拾いました。

- ・在校生の今の生活や課題
- ・在校生が編集に関わるセクションを設ける
- ・さまざまな分野で活躍する卒業生
- ・市井の同窓生、顕著な活躍をしてい

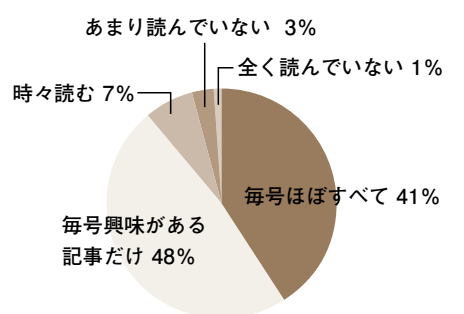
るわけではないが頑張っている人

- ・初期のころの大学のこと
 - ・大きな記事以外に、負担なくタイムリーに入ってくる情報
 - ・オンライン授業が学生にとってどうなのか、秋学期の授業も知りたい
- いただいたご意見は、広報部及び同窓会理事会の中でも検討し、今後の編集に生かしていきたいと思います。多くの方にご回答いただき御礼申し上げます。

回答者の年齢層



どのくらいお読みになりますか



回答総数：日本語305件、英語8件
回答者属性：同窓生85%、在学生またはその保証人13%、その他（教職員または旧教職員など）2%

翻訳・通訳

創立33年

心のこもった翻訳サービス

誤訳だらけのAIに勝つ！
翻訳の“三感王”—EXIM

直近3年間にお手伝いした主な分野

- 法律 33%
- IR・マネジメント 20%
- 環境・エネルギー 17%
- 政治・経済 15%
- 学術論文・講演原稿 10%
- その他 5%

● 品質を最も重視するEXIMは、精度に課題があるとされる「機械翻訳システム」を使用せず、人の力による翻訳を心がけ、お忙しい皆様のお手伝いをしています。

● 試訳(無料)も承ります。

翻訳・通訳・制作(デザイン・印刷)

(株)エクシム・インターナショナル
EXIM INTERNATIONAL, INC.

東京事務所 〒105-0013 東京都港区浜松町2-2-15 セナラルビル3F
TEL 03-3431-2118 FAX 03-3431-2120
E-mail: tokyo@exim-int.com

横浜事務所 〒232-0063 横浜市中区中里2-14-5
TEL 045-721-4800 FAX 045-721-5165
E-mail: yokohama@exim-int.com

President 永島 克彦(14期) Advisor 比奈地 康晴(14期)

♡ICU同窓生10%割引

☎03-3431-2118
URL: http://www.exim-int.com/

From the Alumni House

アラムナイハウスから

支部開催報告

2020年度ICUICUの会支部総会・イベント・懇親会を開催しました

文：土橋喜人 (35 ID91)

本年度はコロナ禍もあり、アラムナイハウスでの開催は断念し、初めてのリモート開催となりました。ホストはシオラレオネ在住の運営委員の赤尾邦和さん(50 ID06)が担当し、ジュネーブ、オランダ、スリランカ、ローマ、アンゴラ等と世界中からの参加となりました。国内も長崎や帰省先からの参加の方もいらっしゃいました。事前登録は50名で、実際の参加は40名弱でした。

支部総会では、役員の交代の報告があり、今後の活動として会員間や学生との交流をどうすればよいかといった、同窓会としての使命について熱い議論が繰り広げられました。今後は、リモート開催でのつながり(全世界とのつながり)なども使いながら会の活性化を図るために検討をしていこうという話になりました。

講演会では、2019年のDAYを受賞された安藤公秀さん(26 ID82)の「気がつけばイスラーム圏と40年」(前三菱商事総代表)の講演がなされました。冒頭、「パキスタンの星」(外国籍の民間人がもらうもので、過去にはロンドン市長やカントベリー大司教が叙勲)の授賞式の様子のビデオを拝聴してから、色々なお話を伺いました。安藤さんご自身が好奇心の塊で、色々なことに首を突っ込み、交友を広げたとのことでした。色々なワクワク感や人に対しての興味がそうさせたそうです。

三菱商事でもイスラームに関心を持ち、仕事でも各地に駐在し、中近東の知識を身に着けたということでした。40代で、論語や孟子なども読むようになったとのことでした。色々なものに興味を持って、挑戦するのが大事と力説されていました。リベラルアーツということの意味が、ようやく分かってきて、自分なりに、

自由になる技術、しがらみ、偏見の多い世界、等を別の世界から見ることできる、というものではないか、とのことでした。

就職のことについて、相談会の話が総会でも出ていたが、それに対して答えるのだが、やりがいと報酬のどちらを選びますか、と聞いてくることがあるとのこと、これは学生に説明してあげないといけないとのことでした。それは環境が与えるものではなく、自らの生き様が重要とのご意見でした。

JICAでは立派な仕事もしているが、「その国が必要としていることをやっているか?」、「日本がやりたいことを押し付けていないか?」ということについては考えた方がよいと思うとのことでした。

質疑応答では、仕事の内容やイスラームの方との付き合い方についての質疑がなされ、日本人のアプローチが、外側からであり、もっとずうずうしく入り込んでいく姿勢があってもよいのではないかと、とのことでした。

中締めには池上清子さん(19)や勝間靖さん(31 ID87)といった豪華な面々によるお話をいただき、その後、2回のブレイクアウトルームでの懇親会でそれぞれのルームで盛り上がりました(これが最も盛り上がったかもしれません!)

参加者は(現・元)国際機関、NGO、大学、高校、省庁、在外公館、研究機関、コンサルタント、民間企業、等といった顔ぶれでした。新卒の若手や、オブザーバーの現役学生も参加し、大いに盛り上がりました。学生以外の最年少の参加者は益子歩鞠さん(64 ID20)でご発言もいただきました。最後は、米川佳伸さん(18)に締めていただき、閉会となりました。

今後も国際協力の関係者のための良い場づくりの機会を提供していきたいとします。

事務局メールアドレス：

icucu.secretariat@gmail.com

フェイスブック：

<https://www.facebook.com/groups/260732654115164/>

ID83±3リユニオン、2023年に延期

文：田中(坂尻) ゆかり (27 ID83)

コロナ禍は深刻さを増し、この先の見通しもつかない状況です。この状況に鑑み、2021年4月3日(土曜)に予定しているID83±3 Reunion開催は中止とし、「卒業40周年同窓会」として2023年4月の土曜日に開催することといたします。ただし、1年前にしか施設予約ができないことから、2022年4月以降に、フェイスブックのグループ「ICU ID83±3 REUNION」(QRコードからアクセスできます)などを通じて開催日の告知をいたします。コロナ禍を無事に乗り切り、同期会でリアルにお会いして歓談できることを楽しみにしています。

【幹事団】幹事長：田中(坂尻) ゆかり、幹事：岡田光弘、黒川妙子、松崎勝彦、南澤(駒澤) 恵磨、山内勝義



桜グッズのご紹介

お馴染みICUの桜から誕生した桜グッズです！ 売上代金の10%が、ICUの美しい桜並木を未来につなげるための資金として大学に寄付されます。是非ご購入いただき、手に取るたびにあの桜並木を思い出してください。

〈桜の箸〉

ICUの桜並木の中で老朽化のためやむなく2016年に伐採された桜の木から若狭塗の箸ができました。箸の長さは23cmです。1000円(税込)



〈桜のフォトフレーム〉

横型(縦も可)。壁掛けもできます。

はがき(写真L判兼用) サイズ。

19.2cm×14.8cm×1.8cm。3564円(税込)



〈桜のマグネット〉

20cm×1.5cm 断面はつかみやすい台形。509円(税込)



〈桜のキーホルダー〉

桜材部分 3cm×3cm。407円(税込)

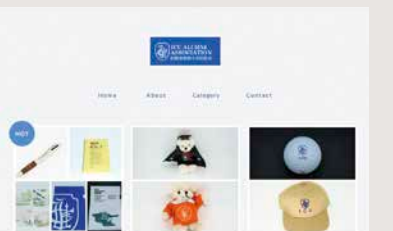


ご購入をご希望の方は、品名、個数、お名前、送付先をaaoffice@icualumni.comまでご連絡ください。追って、代金、送料の振込先を連絡いたします。入金確認後に発送いたします。

ICUアラムナイショップ (同窓会グッズ通販サイト) 開設のお知らせ

文：同窓会事業部副会長
伊能美和子 (31 ID87)

ICU同窓会グッズにつきましては、これまで様々なイベントの際に直接、あるいは、学内同窓会事務局への電話やメールでのご注文と商品代金の振込によりご購入いただいておりますが、2020年10月17日より、Eコマース(EC)を導入することといたしました。ECサイト「ICUアラムナイショップ」の開設により、クレジットカードや銀行振込、コンビニ払いもご利用いただくことができました。また、より多くの素敵なグッズをお手元に置いていただきたい、さらに送料を少しでもお安くできたら、という思いから、少しお得なパッケージ商品を企画いたしました。ぜひ、同窓生の皆様のご理解とご利用をお願いいたします。



<https://shop.icualumni.com/>

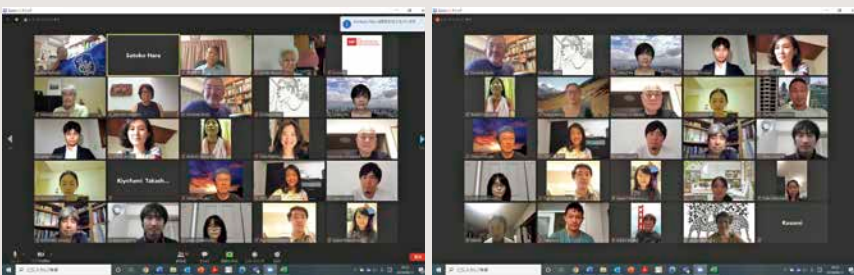
当イベント広報サイト(同窓会HP)：

<https://www.icualumni.com/chapters/icuicu-chapter>

【参考】

「ICUICUの会」とは：ICU同窓生によるInternational Cooperation の関係者の会の略称。参加資格：本会の会員は原則としてICU(大学院、大学又は高校)に在学経験のある又は在職経験のある国際協力を生業とするあるいは関心のある関係者(社会人とし学生は原則除外)で本会の目的に賛同する者とする。

会の目的：本会はICU出身の国際協力関係者の交流を促進し、これに関連するテーマの検討と情報の共有を図ることを目的とする。



寄付者御芳名 Donors

齋藤顕一（17）
6期会
貴重なご寄付を賜り、誠にありがとうございます。

たずね人 Missing

池田英人（35 ID91）
深見淳（43 ID99）
田中智己（49 ID05）
市村脩一郎（57 ID13）
動静をご存知の方は事務局までご一報ください。

訃報 Obituary

渡邊純子 特別会員
榎本末吉 特別会員
片岡泰子 特別会員
源 了圓 特別会員
Willis Ehnle（2）
永谷律子（4）
岡田典夫（8）
白石隼男（10）
森田忠司（23 ID79）
中雄大輔（31 ID87）
小出れい子（31 ID87）
Fegan Ann Mari（31 ID87）
山 嘉信（39 ID95）
田島富美江（G1966）
心よりお悔やみ申し上げます。

ご訂正

本誌133号p.10「DAY賞受賞者エッセイ」のうち、茅野友子氏の略歴の英訳に誤りがございましたので、こちらに正しい記事を掲載し、お詫びいたします。

Chino put to work the education acquired at ICU in her expatriate life, obtained her doctorate in her fifties and still continues to study and teach English literature. At ICU, she facilitated friendship and fellowship with her second alma mater, University of California, Irvine, and received the University’s Chancellor award in 1997. She has been involved in the establishment and running of the Pedilavium Society, an academic research group, for more than 40 years and has also set up the Peace Bell Scholarship in memory of professor D.S. Brewer. She also published “Shakespeare’s Time, Our Time” in November 2019.

茅野様および関係の皆様には大変申し訳ございませんでした。編集部

WELBOX
サービス終了について

コロナ禍が長引く中で、同窓会の財政や諸事情を考慮して、ICU WELBOXサービスを、2021年9月30日をもって終了させていただきます。長い間のご愛顧ありがとうございました。詳細は追ってWebサイトでご案内いたします。

事務局からのお知らせ

★ 広告募集！
本誌では広告を募集しています。フルサイズ6万円、ハーフサイズ3万円で承っております。ご興味のある方は、詳細を事務局までお問合せください
★ 原稿をお寄せください！
期会、リユニオンなどの案内・報告をお寄せください。本誌およびWebサイトに掲載いたします。
★ 住所変更について
住所・勤務先・氏名の変更の際はメールまたは同窓会のWebサイトの住所変更から、ご一報ください。aaoffice@icualumni.com
地方・海外にご転勤の際には支部をご紹介いたします。同窓会事務局までお問合せください。携帯の方はこちらからどうぞ：



★ ご協力をお願いします
大学の宣伝＝大学への支援という考え方から、同窓生の著作、雑誌インタビューなどには、略歴欄に「国際基督教大学卒業」とお入れいただけますよう、お願い申し上げます。

photo: OOMA Tetsu (34 ID90)



アラムナイニュースを連名でお届けできるようになりました

この度、アラムナイニュースお届けの際に連名でお名前を表示をすることができるようになりました。本誌をご夫婦、ご家族に1冊という形をご希望の場合は、同窓会ウェブサイトの「住所変更フォーム」からご申請ください。また、連名解除のご希望は同フォームのメッセージ欄にてご連絡をお願いいたします。これまで同様、ご住所、メールアドレス、勤務先の変更などもこちらからお願いいたします。

同窓会ウェブサイト
www.icualumni.com→「同窓生の方へ」→「住所変更フォーム」

The Alumni News can now be delivered under joint names.
If you and your family currently receive multiple copies of the Alumni News and prefer not to receive more than one copy, please submit the address change form from our website.
If you would like to cancel the joint names, please use the message section of the same form.
The update of your contact information from the same form is always appreciated.

https://www.icualumni.com/to_alumni/register/



DAY賞候補者をご推薦ください

Distinguished Alumni of the Year (DAY) 賞は、国際基督教大学に在籍したことのある方（卒業生・留学生・教職員。ただし故人は対象外）の中から、大学および同窓会の知名度・魅力度を高めることに貢献した方に対し、その功績を称えるために贈呈されます。皆様からのご推薦をお待ち申し上げております。

※推薦は年間を通して受け付けておりますが、前年10月15日受け付分までを選考対象として翌年の桜祭りで受賞者を表彰します。
※受賞者は同窓会Webサイトで発表するとともに、アラムナイニュースでお知らせいたします。
※推薦および選考については公開されません。

※自薦・他薦を問いません。
※推薦方法 WebフォームからもDAY賞候補者推薦ができるようになりました！
https://www.icualumni.com/activities/day/
Webサイトの「DAY賞」のページから「推薦フォーム」に、あるいは「推薦用紙PDF」をダウンロードして、必要事項をご記入の上ICU同窓会事務局あてにお送りください。
郵送/FaxまたはE-mailで受け付けております。

※必要事項
・推薦したい方の氏名と卒業年、あるいは在籍年（分かる範囲で）
・推薦理由（新聞記事などの客観的資料があれば併せてお送りください）
・あなた（推薦者）の氏名と卒業年
・あなた（推薦者）の住所・Tel.・E-mailアドレス
※歴代受賞者名もWebサイトに掲載しております。



ICU同窓会事務局
〒181-8585東京都三鷹市大沢3-10-2
TEL&FAX：0422-33-3320
E-mail：aaoffice@icualumni.com

3月27日

今年は土曜日にオンライン開催
Online on Saturday

2021年3月27日開催 桜祭りのお知らせ Online Sakura Festival 2021 March 27, 2021

今年の桜祭りはオンライン開催
遠方の方もこの機会に是非ご参加ください
時空を超えて集いましょう

春の訪れとともに、同窓会「桜祭り」を開催します。16回目を迎える同窓会「桜祭り」は、同窓会年次総会、DAY賞（※）表彰式、卒業50周年記念式典など、年に一度の同窓会総合イベントです。例年は桜の花が見頃のキャンパスで開催し、懐かしい方々の旧交を温めていただく機会ともなっていました。昨年は、新型コロナウイルス感染防止のため、開催直前に急遽

年次総会のみオンライン開催に変更いたしました。今年は、未だコロナ収束が見通せない中、桜祭り全体をオンラインで開催いたします。

普段キャンパスまで足を運びにくい方にもご参加いただける機会となります。同窓会や大学に関する最新の情報をお届けいたしますので、たくさんの同窓生の皆さまにご参加いただきますようお願い申し上げます。

（※）DAY賞（Distinguished Alumni of the Year Award）は、ICUに在籍したことのある方（卒業生・留学生・旧教職員を含む）の中から、大学および同窓会の知名度・魅力を高めることに貢献した方に対し、その功績を称えるため毎年授与されるもので、今年は5人の卒業生に授与されることになりました。

開催日：2021年3月27日（土）13:00～15:30（開室12:45）

形態：オンライン（Zoom）

プログラム：13:00～14:15 第1部 同窓会総会、卒業50周年記念式典ほか
14:15～14:30 休憩
14:30～15:30 第2部 DAY賞表彰式
〔卒業50周年の方〕15:30～16:30 期毎の交流セッション

参加申込：以下のフォームからご連絡ください。

<https://forms.gle/DQgZPvk8deYhcUGg6>

※14期生、15期生の皆様は、別途お送りするご案内状からご連絡ください。

お願い：出席、欠席に関わらず、
出欠のご連絡をお願い申し上げます
申込締切：3月14日（日）



お問合せ：同窓会事務局 メール：aaoffice@icualumni.com

詳細につきましては、同窓会 Web サイトをご参照ください。

<https://www.icualumni.com/>



DAY賞（Distinguished Alumni of the Year Award） 2021受賞者決定！

ICU同窓会・DAY賞選考委員会
DAY selection Committee

鈴木克明 SUZUKI, Katsuaki (25 ID81)

日本における教育工学、特にインストラクショナルデザイン分野の第一人者でグローバルにも活躍。熊本大学大学院教授（教授システム学研究センター長）、日本教育工学会第8代会長などを務め、日本におけるインストラクショナルデザインの普及に大きく寄与。特にコロナ禍で教育のオンライン化が進む中、学会等各所で発信を続けるなど、効果的な教授法確立とテクノロジー活用推進に多大なる貢献を行なっている。

Katsuaki Suzuki is one of the most renowned researchers in Japan in the field of instructional design. As a professor and Director of Research Center for Instructional Systems at Kumamoto University, as well as the president of Japan Society for Educational Technology, he has been successfully educating and training instructional designers in Japan, contributing to the effective use of technology especially when COVID-19 had forced schools to go online in 2020.

谷村 格 TANIMURA, Itaru (31 ID87)

1987年マッキンゼー・アンド・カンパニー入社。1999年同パートナー就任。2000年エムスリーを創業、同社代表取締役社長就任。エムスリーは医師向けのポータルサイトを展開しており、国内の医師登録数は29万人で日本の医師の9割以上が会員登録、また日本以外にも10カ国以上に事業展開しており全世界の医師1,200万人の約半分に当たる590万人を会員化している。2020年3月末の連結売上高は1,309億円、従業員数は7,127人。2020年は「アリババと新型コロナをCTで診断するAIを共同開発し100以上の病院に投入」、「ソニーと共にコロナ禍で面会制限が出ている医療機関向けに遠隔面会システムの提供」、「医療現場への250万枚のマスクを無償提供」など、コロナ禍社会に貢献した。

After joining McKinsey & Company in 1987, Itaru Tanimura ascended to Partner by 1999, founded M3 in 2000 as its CEO. M3 operates a specialized web portal for medical professionals, now with 290,000 members covering over 90% of physicians in Japan. Additionally, its overseas operations across 10+ countries have amassed a network of 5.9 million members, which account for roughly half of all 12 million physicians across the globe. Consolidated sales for FY2020 reached 130.9 billion yen, generated by M3's 7,127 employees. Most recently in 2020, contribution via COVID-19 initiatives included projects such as "co-development and provision of an AI based CT imaging COVID-19 diagnostic tool with Alibaba, across 100 medical sites," "provision of a remote visitation system at visitation restricted hospitals, in collaboration with Sony," and "distribution of 2.5 million free face masks to medical sites."

The Sakura Festival 2021 will be held online.
Join us from anywhere in the world,
crossing geographical distance.

With the arrival of spring, the ICU Alumni Association will hold the "Sakura Festival 2021." The festival, marking the 16th of this year, is an annual comprehensive event consisting of a general assembly, a celebration of the 50th anniversary of graduation, and a DAY award (*) ceremony. Each year it has provided a wonderful opportunity for alumni to gather enjoying and renewing friendship on campus under beautiful cherry blossoms. Last year, we decided at the last min-

ute to hold only an online general assembly in view of the spread of COVID-19. This year, as the containment of the pandemic still cannot be foreseen, we have decided to make it a comprehensive online event. It will be a great opportunity for people who have difficulty visiting the campus physically. We will prepare the latest updates about the association's activities and the university. We are looking forward to welcoming more alumni to this year's event.

*DAY (Distinguished Alumni of the Year) Awards

DAY awards are conferred every year on graduates, former faculty and staff, and anyone affiliated with the university, who have contributed to enhancing the recognition or appeal of the university or the alumni association. The awards were presented to five graduates for their distinguished services this year.

Date: Saturday, March 27, 2021

Time: 13:00 - 15:30 (Zoom opens at 12:45)

Style: Online (Zoom)

Program:

13:00-14:15 (Part1)

General Assembly, 50th Anniversary Celebration of Graduation, etc.

14:15 - 14:30 Break

14:30 - 15:30 (Part2) DAY Award Ceremony

15:30 - 16:30 50th Anniversary Celebration Breaking Session (each class)

*All the programs will be in Japanese.

RSVP via the webform

by March 14: [https:// forms.gle/DQgZPvk8deYhcUGg6](https://forms.gle/DQgZPvk8deYhcUGg6)

For details, please visit our homepage: <https://www.icualumni.com>

For inquiry, please contact aaoffice@icualumni.com

児玉治美 KODAMA, Harumi (35 ID91/G1994)

アジア開発銀行（ADB）駐日代表。フィリピン本部を経て、女性では歴代初の就任。小学校の後半、高校時代をアメリカで過ごした後ICUに入学、大学院まで進んで、国際関係を選考。卒業後は参議院議員秘書を務め各国政府、国連、国際NGOなどとの交渉、広報などを担当の後国際NGO（ジョイセフ）に転職。そこでの実績が認められ、国連人口基金に誘われる。

Harumi Kodama is the first female representative of Asian Development Bank in Japan. She spent half of her elementary school days and all of her highschool time in the U.S.A. It was only natural for her to choose ICU and ICU Graduate School where she majored in international relations. Her work career began as a legislative aide to a Member of Japanese Parliament, where she engaged in negotiations with various governments, UN and other international organizations, followed by JOICFP(international NGO), United Nations Population Fund (UNFPA) who recruited her in recognition of her achievements and then ADB.

酒井里奈 SAKAI, Lina (39 ID95)

ICU卒業後、邦銀に入社。その後外資系証券会社等に転職するも発酵技術に興味を持ち32歳で東京農業大学応用生物科学部醸造科学科に入学。2009年卒業。翌年より岩手県奥州市の休耕田を利用した米のエタノール化事業の実証実験に参加。実証実験の結果、燃料としては採算の合わないエタノールを化粧品原料としての販売を提案し、2013年には市の研究事業から事業を引き継ぐ。現在、有機栽培の米や飲料残さを原料とするエタノールを化粧品の原料として販売するほか、自社で化粧品・雑貨の製造も行う。2019年には経済産業省の新興企業支援プログラム「J-Startup」にも選出された。

After graduating from ICU, Lina Sakai joined a Japanese bank. After that, she changed jobs to a foreign securities company, but became interested in fermentation technology and entered the Department of Applied Biological Sciences, Tokyo University of Agriculture at the age of 32. Graduated in 2009. From the following year, she participated in a demonstration experiment of a rice ethanolization project using a fallow field in Oshu City, Iwate Prefecture. As a result of the demonstration experiment, she proposed to sell ethanol, which was not profitable as a fuel, as a raw material for cosmetics, and in 2013, she took over the business from the city's research business. Currently, in addition to selling ethanol made from organically grown rice and food waste as a raw material for cosmetics, she also manufactures cosmetics and miscellaneous goods in-house. In 2019, her business was also selected for the Ministry of Economy, Trade and Industry's start-up company support program "J-Startup".

松崎英吾 MATSUZAKI, Eigo (47 ID03)

NPO法人日本ブラインドサッカー協会 専務理事 兼 事務局長。ICU3年生の時に、偶然ブラインドサッカーに出会いに衝撃を受ける。大学卒業後は、(株)ダイヤモンド社等一般企業に勤務。業務の傍らブラインドサッカーの手伝いを続けていたが、「ブラインドサッカーを通じて社会を変えたい」との想いで、2007年に退社し協会専属に。視覚障がい者と健常者が当たり前に混ざり合う社会を目指して奮闘中。

Eigo Matsuzaki is Managing Director and Executive Director of Japan Blind Football Association. During his ICU days, he happened to experience blind football and was impressed by it. He has supported activities even after his graduation while working for companies such as Diamond Inc. In 2007, Eigo quitted his job and joined Japan Blind Football Association as full-time Executive Director. Since then Eigo is working hard to build the society where visually impaired persons naturally live together with visually able persons.

STAFF

EDITOR IN CHIEF
新村敏雄 SHINMURA, Toshio (27 ID83)

MANAGING EDITOR
松田真理子 MATSUDA, Mariko (38 ID94)

EDITORS
鈴木 律 SUZUKI, Ritsu (23 ID79)
望月厚志 MOCHIZUKI, Atsushi (26 ID82)
池島広子 IKESHIMA, Hiroko (27 ID83)
神内一郎 JINNAI, Ichiro (33 ID89/G1992)
太田順子 OTA, Junko (35 ID91)
星川菜穂子 HOSHIKAWA, Naoko (40 ID96)
滝沢貴大 TAKIZAWA, Takahiro (62 ID18)
水野愛子 MIZUNO, Aiko (62 ID18)

ART DIRECTOR
佐野久美子 SANO, Kumiko (44 ID00)

PRINTING DIRECTOR
坂井健 SAKAI, Takeshi (小宮山印刷)

EXECUTIVE DIRECTOR
松島眞理 MATSUSHIMA, Mari (36 ID92)

PUBLISHER
櫻井淳二 SAKURAI, Junji (28 ID84)
cover photo: ICHINOSE, Chihiro (42 ID98/G2016)
backcover photo: 同上

ご意見・ご感想をお気軽に

アラムナイニュースは、同窓生のみ
なさまのために制作しているものです。
今後の制作の参考にしますので、ご意
見・ご感想、企画や人物の紹介等有
る方は、メールにてお気軽に事務局ま
でお知らせください。

アラムナイニュース編集部員募集

あなたの経験をANに生かしてみま
せんか？ 企画、取材、執筆、撮影、
編集進行等を一緒にやって頂ける方を
大募集中です。もちろん未経験でも可。
最初是一緒に取材などを行いながら編
集のプロから直接技術を学べますし、
3年ぐらいやれば、一通り編集の基本
が身に付きます。もちろん、現役の学
生さんも大歓迎です。興味のある方は、
同窓会事務局へメールでご連絡くださ
い。

aaoffice@icualumni.com

■大学・同窓会に関する情報が満載です。
ぜひ一度ご覧ください。
同窓会Webサイト
https://www.icualumni.com/
同窓会 Facebook
https://www.facebook.com/icualumniassociation
大学 Web サイト https://www.icu.ac.jp/
JICUFWeb サイト https://www.jicuf.org/
■ ICU 同窓会事務局
〒 181-8585 東京都三鷹市大沢 3-10-2
TEL&FAX：0422-33-3320
Email：aaoffice@icualumni.com

